

平成26年8月7日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成26年8月7日(木) 午前10時00分
場所	教育委員会室
開会	午前10時00分
閉会	午後4時55分
出席委員	
委員長	横井利男
委員	雁部隆治
委員	阿部博道
委員	坂根慶子
教育長	横山信雄
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	石井秀和
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	佐久間之
庶務課長	岩佐一郎
学務課長	齋藤好正
指導室長	月田行俊
生涯学習課長	前田泰伯
スポーツ振興課長	佐久間英樹
ひきふね図書館長	倉松邦多

2 会議の概要

横井委員長 ただ今から教育委員会を開催します。本日の会議録署名人は雁部委員にお願いいたします。

(平成26年4月17日教育委員会会議録確認)

なお、議事の都合で適宜休憩をとることになりますけれども、ご了承ください。

議決事項第1

議案第51号「平成27年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択について」の案件を上程し、指導

室長が説明する。

横井委員長 ありがとうございます。

審議に入る前に、これまでの経過等について確認をさせていただきます。

墨田区立小中学校使用教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、平成27年度使用小学校教科採択の方針により、4月28日から6月4日までの間、教科ごとの教科用図書調査委員会を設けて専門的な調査を行うとともに、6月3日から6月27日までの間、すみだ生涯学習センター内に教科書を展示し、ご来場された区民の方々からもご意見を伺っております。

6月13日に教科用図書選定審議会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見等を資料として、7月3日までの間、計4回の教科用図書選定審議会を開催し、全ての教科書について審議を行い、7月3日に墨田区教科用図書審議会の答申としてご報告をいただきました。

さらに、委員の皆様には7月22日から7月31日までの間、全ての教科書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見等にも目を通していただきながら、教科書の細部にわたりご検討していただいたところです。

本日も本会場に教科書が、各報告等も用意しておりますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いいたします。

審議の順序は国語から順に、9教科11種について審議をいたします。

なお、各教科等の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの目標等について、指導室長から説明をしていただきたいと思います。

それでは、国語について審議いたします。指導室長、ご説明をお願いいたします。

指導室長 国語の教科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」となっております。

国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域から構成されておりまして、偏りなく、確かな言葉の力、総合的な国語力を育成することが求められています。

また、言語力を育成する中核を担う教科として、生活や学習に必要な言語能力を身に付けさせるため、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究できる能力を育成することが望まれております。

国語につきましては、現在使用している教科書は、「教育出版株式会社」でございます。全5者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、国語の教科書について、委員の皆さんのご意見ををお願いいたします。

はい、雁部委員どうぞ。

雁部委員 私は、国語については、結果から言いますと、東京書籍をお薦めしたいと思います。東京書籍、光村図書、教育出版と、そんなに差はないのですが、結果から言うと、東京書籍をお薦めしたいと思います。

まず、細かいところからいきますと、2年生の下をめくっていただいて、東京書籍ですね。2年の上からでもいいのですが、一番最初をめくっていただいて目次、ここは大変見やすくなっております。

4ページ、5ページ、ここを見ていただくと、どんな学習をするのか、はっきり説明がしてありまして、学習の進め方を明示してある。

それから、4年生の下、42ページ。4年生の下の42ページから47ページ、クラスで話し合おうという単元がありますが、先ほど、目標の最初にありました「伝え合う力を高める」ということで、言語能力を高めるということで、ここに伝え合うためのモデル文が例示してあって、大変分かりやすくなっていると思います。

あとは、全般的に見ると、全ページ写真がきれいで、イラストも中間色で、見ていて疲れにくい。各単元で目標を明記して、授業の展開が分かりやすいようになっております。ただ、挿絵が多少古風かなという印象は受けました。全体的に読書を薦めていて、自学自習を促している。ただ、少し墨田区の子供には、子供たちには難しい部分もあるかなと思いました。

全体的に目標に忠実であるということで、東京書籍をお勧めしたいと思います。

ほかの教科書は、教育出版、各学年とも紙質がよくて、見やすくできています。

2年生の下、教育出版の2年生の下、78ページ、「いなばのしろさぎ」という、これはお話を読んでもらおうというところですが、ここについての巻末に、お話に出てくる、飛び出す絵本のようなものがついていて、これも大変おもしろいと思いました。

3年生の下、教育出版3年生の下、86ページ、まちの行事について調べようという単元があります。ここは、学校と家庭・地域で学校を盛り上げていくという意味では、まちのことを取り上げているということで、大変よいことだと思います。

あとは、4年生の下で立体の点字がありましたが、これもいいと思いました。

5年生の上、5年生の上の64ページ、新聞を読もうというところで、身近な話題、68ページはウチムラ君とか載っていて、身近な話題等題材にして興味を持たせるようにしているところはいいと思いました。

全体的に、ここが大事というポイントを押さえていて、メリハリがあって、飽きさせない内容となっていると感じました。

次に、光村図書ですが、全般的に絵がきれいという印象。それから、イラスト等をちょっと多用し過ぎているような感じも受けました。これは3年生の下を見ていただくと、ぱらぱらめくっていただいても大体分かるのですが、絵が非常に多いですね。この辺もどうかと思いました。

4年生の上の84ページ、自分の考えを伝えるにはということで、組み立てをうまく説明していて、非常によいと思いました。4年生の下の76ページ「ウナギのなぞを追って」というのは、話題的にはタイムリーかなと。同じ下の132ページに百人一首が全部載っているんですね。これはすばらしいと思いました。

5年生、6年生は1冊になっていて、写真を多用しイラストの色彩がちょっと強過ぎるのではないかという印象を受けました。全体的に取り扱う量が多いので、墨田区の子供に使いこなせるかどうか、ちょっと懸念されるところです。

学校図書は、1年生の上をめくっていただくと分かるんですが、タグになっていて、これがちょっと逆に使いづらかなと。全体的に絵がメルヘン風のタッチになっておりまして、どちらかというとな人が子供のころを思い出して読む本という印象を受けました。

三省堂さんについては、1年生以外各学年1冊で、ちょっと重いのと、別冊がついていますが、これでしたら、ほかの会社のように上下2冊にして編集していただいたほうがよかったかなとは思いま

す。全体的に少々難易度が高く、取り扱う量も多いので、墨田区の子供には適さないかなということ
で。

全体的なバランスを考えて、一番適しているのは東京書籍だと思いますので、東京書籍をお薦めし
たいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかのご意見をどうぞ。

はい、阿部委員。

阿部委員 先に結論から申しますと、私は光村図書を推薦したいと思います。

国語の場合は、話すこと、書くこと、読むことをバランスよく学ぶことが必要だということと、そ
れから、名文あるいは詩歌などの鑑賞を通じて日本語の美しさとか日本の文化の魅力に触れてもら
うこと、そして子供たちがお互いに意見交換や感想を発表したりしてコミュニケーション能力を高めて
いただくことなどが、総合的にバランスよくとられている本がいいのではないかと思います。この点、
5社とも、私が読む限り、教科書として全く問題ないと考えますが、取り上げている題材とか内容に
ついては、多少各社で特色があるように思います。

幾つか気づいた点を申し上げますと、東京書籍は、目次とか教科書の読み方などの説明が非常に詳
しく述べられています。それから、進め方が、つかむ、取り組む、振り返る、広げるというような段
階的に進んでいく学習がよく整理されていると思います。それから、2年生から春夏秋冬の時期に合
わせて短歌や詩を紹介しているのは、非常にすぐれているなという印象を持ちました。全体的にバラ
ンスがとれているというふうに理解しています。

それから、2番目の学校図書は、特にこれという特色は余り感じなかったのですが、5年生の上の
36ページに「東京スカイツリーの秘密」という瀧井宏臣さんの文章が載っていて、スカイツリーの
写真とか、建築からいろんな新しい技術について学んで、特に本区にとって大変興味のある題材を使
っている点が魅力的だなと思いました。

それから、3番目の三省堂ですが、雁部委員がおっしゃったように、若干高学年になると1冊で重
いかなという点があるのですが、内容的には漢字の学習を非常に重視している点が特色だと思いま
した。各単元で出てくる新しい漢字をまず学習させて、そのときに書き順をきちんとその場で教えてい
ること、それから熟語についてイラストを使って、場面で使われている言葉の意味を教えている点で、
あるいは、辞書の使い方などにも触れているので、非常に漢字の学習にウエイトを置いている本で、
内容的にもやはりバランスがとれている本だなと思います。

4番目の教育出版ですが、これもバランスがとれて、お薦めできる教科書だと思います。

5番目の光村図書ですが、各学年で春夏秋冬、季節の言葉というページがあります。例えば5年生
の本でいうと、目次の5ページのところの後半に、季節の言葉として春夏秋冬というのがあって、3
4ページをあけると、春の空ということで、写真と清少納言の「枕草子」の言葉、それから「花冷え」
とか「春雨」というような日本語の美しい表現を季節ごとに紹介している。あるいは6年生で二十四
節季の言葉を説明して、非常に日本の言葉の美しさを大事にしている本だなということで魅力を感じ
ました。

墨田区の場合は、子供たちが地域の歴史や伝統文化を大切にする風土があるわけなので、やっぱり
季節感を大事にして、比較的格調高い文章を多く扱っている、それから、漢字の学習についても光村
図書は比較的バランスよく取り入れているので、このような観点から光村図書を推薦したいと思いま

す。ただ、ほかの教科書も、いずれも遜色のないもので、いずれを採用しても特に問題はないという理解です。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

坂根委員、どうぞ。

坂根委員 指導室長のお話に、学習指導要領のことに関して、「話す・聞く、読む、書く」という4領域と、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項があるとありました。これを踏まえ、現在の国語教育と私などが受けたいわゆる伝統的な国語教育との違いから申し上げます。伝統的な国語教育は文学的文章の読解とか豊かな情操を育むことなどを主眼にした傾向がありました。現在はそれにプラスして情報機器を活用することが必要になると思いますので、視点をパソコンの入力・活用、そういうことに限って幾つか見てみました。どの教科書もすばらしいのですが、結論から言いますと、東京書籍を第一候補に挙げ、それから、教育出版も挙げたいと思います。

光村図書は、文章がよく選ばれていて、丁寧な読解力がつくと思います。

三省堂はかなり高度な使い方ができるようになっていまして、6年の154ページ、155ページ、ここに「レポートの組み立て」というのがあります。これは考えるための例ですが、初めに、本論、調査課題、調査方法、内容、考察、終わりに、となっています。それから、引用についても、「何々辞典より」とか、ホームページも「httpから始まる何々より」と、引用の仕方も大学の教材に使いたいぐらいきちんとしております。こんなすばらしい小学生がこれから大学生になるのかと思うと楽しみです。ただ、余りに素晴らしすぎて使うのが難しいかなという気はいたします。

同じ三省堂6年の別冊ですが、11ページ、ここに「言葉の輸出入」というのがございます。和語、漢語、外来語については、どの社の教科書も漏れなく入っているのですが、外国から入ってきた言葉に対して、ここでは外国でも通じる日本語として、ご存じの「スシ」や「スキヤキ」「アニメ」「カラオケ」「オタク」、それから「ハイク」「ザイバツ」、また「カイゼン」「モッタイナイ」「ツナミ」まで例を挙げ、こういう現代日本の文化が海外に伝わっているということも書いてあります。大人にも通じるような高度な内容です。5年生では203ページ「言葉の由来」の外来語のところで、明治期に、日本で作られた新漢語について少し書いてあります。203ページの囲みに書いてあります。・・・「漢語の中には「野球」「科学」、日本でつくられたものもある。」・・・かなり高度な内容を入れていきます。

学校図書について申し上げます。学校図書では、文章がさまざまな分野から選ばれています。ほかの会社で採らないようななかなかいい文章も選んでいます。例えば5年生の上で「椰子の実」、島崎藤村の「椰子の実」、これを文語詩として取り上げています。それから漢詩も、各社取り上げているのですが、多いのが「春眠暁を覚えず」孟浩然の「春暁」です。李白は「静夜思」。杜甫の「絶句」。蘇軾、蘇東坡の「春宵一刻」で始まる「春夜」などです。それに対し学校図書は「胡隱君を尋ぬ」という、高啓という方のかかなり有名な詩ですが、余り日本ではなじみがない、そういうものを取り上げています。その辺が特色かと思います。

私が推薦したい東京書籍について、詳しく申し上げます。1年の上の38ページ、39ページ。表記の問題で、小さい「っ」、小さい「ょ」があります。なかなかどうして小さい「っ」を書くかということが子供には理解しにくいと思います。この教科書では、「ねこ」「ねっこ」というミニマルペアーで導入しています。「ね」の場合は手をたたく、「こ」もたたく。実際にやってみますね(実演する)。

「ね、こ」。「ねっこ」の小さい「っ」のときは手を握る。こうですね「ね、っ、こ」。こういう形で小さい「っ」を理解させています。

同じ下の49ページ、ここは伸ばす音のミニマルペアーです。「おばさん」「おばあさん」、「おじさん」「おじいさん」。「おばさん」は「お、ば、さ、ん」は手を4つたたき、「おばあさん」は、たたいて、伸ばすところで「あ」と「い」では手をおろす（実演する）。「お、ば、あ、さ、ん」。次が「お、じ、さ、ん」、「お、じ、い、さ、ん」です。

こういう形で、音のリズムと、それから表記を一緒に教えるという、大変工夫された形になっていて、これは例えば外国人の児童、それから特別支援学級などでも使えるかと思います。それから、こういうことを理解していると、体でもって拍感覚というものを音楽的にとらえることもできます。さらに、外国語学習の活用にもなる。これは東京書籍だけの特徴です。

それから、伝統的な言語文化についてですが、東京書籍には「日本語の調べ」という詩歌に関するものが2年の下からあります。春夏秋冬、いろいろなものがあるのですが、例えば3年の下34ページ、35ページ、秋です。「赤とんぼ」、三木露風の「赤とんぼ」です。これが詩として書かれていて、35ページのほうには富安風生、鷹羽狩行など現代の俳人の句、皆さんご存じの正岡子規や与謝蕪村の句もあります。これはずっと春夏秋冬と続きまして、東京書籍の詩歌は111となっています。東京都の資料によりますと各社平均が47。詩のほうは、各社平均が39、東京書籍は56、と言う特色があります。これは、詩歌を特に授業として詳しくしなくても、自然に言葉に出して、音読して覚えることができます。小さいときに覚えたものは一生忘れませんから、こういう効果があるのかと思います。

あと、6年生の教科書の141ページ、ここではプレゼンテーション。大学でも、ゼミでも、それから企業でも、プレゼンテーションというのは普通に行われます。やはり文章表現という点で、大変必要なことです。142ページにはプレゼンテーションのメモの形ができています。これをもうちょっとパワーポイントにまとめると、完璧なものになるでしょう。

その次、同じ本の146、147、「情報を活用するときに気をつける」というところで、引用するときの規則が書いてあります。例えば「必要な範囲に限って引用する、引用した部分は、自分の文章との区別がつくようにかぎ括弧つける」などです。大学生などが引用を明記せずにコピー&ペーストと言って勝手に自分のようにしてしまっていますが、この点を、この小さいときからきちんと指導するということはすばらしいことだと思います。

もう1点だけ申し上げますが、ローマ字の学習が3年生で行われます。各社、ローマ字入力、ローマ字の学習にはかなりページを割いています。

教育出版の3年の上の130ページから6ページにわたって丁寧なローマ字の指導がされています。そして、130ページにはローマ字のつづり方、ローマ字のサシスセソの「シ」、それからタチツテトの「チ」については、「シ」は「s i」と「s h i」の二つの書き方があるとなっています。その写真のところには押上駅の表示があります。「押上」の「シ」は「s h i」だということがあるので、これを子供たちが見ると「ああ、押上はこうなんだ」と。錦糸町があれば錦糸町の「s h i」、「チョウ」も「t i」と「c h o」の、その違いもよく分かるかと思います。

各社この時点で、3年の時点でパソコンの入力について書いてあります。例えば三省堂では、パソコンの入力について「ローマ字を知っているとコンピューターで入力するときに役に立ちます」というような表現もしています。学校図書は3年下のほうでパソコンの入力に2ページ費やして、光村図

書も、3年上でローマ字の書き方、下のほうで入力を行っています。教育出版は、入力については行っていません。東京書籍は4年の上で「コンピューターで入力しよう」と言う箇所があります。

書くときのローマ字とパソコン入力は違います。特に「ヂ」とか「ヅ」ですね、「di」。「ヂ」をパソコンの場合は「di」、「ヅ」を「du」。ワイウエヲの「ヲ」は「wo」、「ン」は「nn」とパソコンでは入力します。そういうこともどこかでやる必要があるのではないかと考えています。

最後に一つ、教育出版は1社だけ、歴史的仮名遣いについて書いてあります。5年の下の9ページで三好達治の詩で説明しています。有名な「雪」という詩、その中で歴史的仮名遣いということがはっきり書いてあります。詩人や俳人などの作品には、現在では使われない仮名遣いが用いられています。このような仮名遣いを歴史的仮名遣いと言いますが、一般には旧仮名遣いと言われています。この教科書では旧仮名遣いではなく歴史的仮名遣いとはっきり書いてあります。

また東京書籍では5年の「枕草子」のところで、古文には現在使われなくなった文字や言葉も使われています。「ようよう白くなりゆく」を「やうやう」と書いて、「ようよう」と読めると書いています。

長くなりますのでこの辺にいたしますけれども、私が注目した点に限って申し上げました。

横井委員長 ありがとうございます。

では教育長、どうぞ。

教育長 東京書籍ですけれども、表現の工夫だとか文章構成、また、4年の上の114ページに、実際に推敲しようということで、これで推敲のやり方が示されて、それから、4年の下では実際の作文の書き方について示されている。いわば学ぶ教材として非常に充実しているかなと思います。全てのページに挿絵や写真も使われていることで、見やすい教材であります。若干ちょっと全体的に文字の規格が小さいかなという印象を持っております。

次、光村図書ですけれども、本区においても読む力の向上が必要とされている中で、全学年の巻末に読書単元があるほか、図書館の活用推奨、中で推奨されております。各単元末、例えば4年での29ページですけれども、ここでも内容に関連した本の紹介があるほか、そういうことで読み広げに活用できるような内容になっていると思います。それからもう一つ特徴的な点は、各巻の初めに、各学年の学習を見直そうということで、目標・課題への取り組みや、あるいは振り返りという段階が一目に分かるようになっていて、非常に学習の大きな手助けとなる、よい点かなと思います。

教育出版では、読んでみずから考え、書くという、言語活動の基本となる力の育成をする上で、読みの観点やノートの使い方、これは4年の下の48ページですけれども、具体例ですけれども、こうした例で分かりますように、非常に分かりやすい例示をした上で学習スキルを身につけさせる、いわば系統立った内容が示されて、すぐれているかなと思います。それから、各巻末に、この本で学ぶことや学習要領が網羅的に収録されておまして、学習の振り返りに役立つかなと思います。そして付録に、これは光村図書にもありますが、学年ごとに読む本のページがジャンル別にありまして、これも非常によい点かなと思います。

こうしたことから、光村図書と教育出版との比較で考えますと、私は教育出版を推したいと思いません。

以上です。

横井委員長 私は、現在使っております教育出版がいいと思っています。例えば全社共通で取り上げられておりますのは「ごんぎつね」ですけれども、「ごんぎつね」で比較をしてみました。

文章そのものも、本文も社によって微妙な違いはありますが、展開の仕方について考えてみますと、まずタイトル、「ごんぎつね」というのがあって、その前に学習のねらいみたいなものが書かれておりますけれども、各社それぞれ工夫はされておりますが、教育出版のものが比較的的確に行われているのではないかと思います。

子供たちが実際に学習を進める上では、脚注に当たるところが非常に重要だと思うのですが、脚注がそれぞれ大変個性があるなということが分かりました。実際、見比べていただくと、東京書籍は4年の下、100ページですね。それから、学校図書は4年の下の40ページですね。三省堂は4年、118ページ。教育出版は4年下、30ページですね。光村図書は4年下の8ページ。タイトルのある最初のページを見てみますと、脚注でかなり個性があるということが分かります。三省堂は、子供の自主性を尊重するという意味では脚注に頼らないというのがありまして、星印で特に注目させたい言葉みたいなものが提示されているというところがあって、あとは脚注、空白である部分も結構あります。それから東京書籍は、これは他社と違いまして、新出漢字が脚注に出ています。そこが他社と違うところです。あとの3社は、新出漢字については印をつけて脚注に載っておりまして、それから、子供たちにとって必要な用語の説明が載ったりしておりまして、個性があるなということを感じました。

読み物を読む上で新出漢字、子供たちが文章を読んでいく上で、ぱっと新しい漢字が出たときに、下を見るとそれで読み方が分かるというようなシステムになっているという意味では、どこも読めることは読めますが、例えば東京書籍の場合は、その欄でほかの読み方も出ています。そうすると、ここで勉強することになるとしたら、ちょっと寄り道をするようになってしまって、読み物を読むという狙いから少し違うのではないかなという気がします。

それから三省堂は、先ほど阿部委員さんからもご指摘がありましたけれども、漢字は、「ごんぎつね」が始まる前に、そこで習う漢字を先に学習するようになっていきます。物語を読むのではなくて漢字、まず漢字ありきのような感じになって、物語を読む上では、まず物語を読んで、出てきた漢字について調べて深めていくというふうなのが、私の個人的に考える筋かなという感じがいたします。

他社も、こういった細かい筆順ですとか、漢字の読み方とか使い方は、大体巻末に整理されて載っているのが多いので、そちらのほうが順当かなという気もいたします。

そういったことで、注の扱い方と、それからタイトルの前の学習の目当てに当たるところの丁寧、適切さみたいなものが、私は現行の教育出版がいいのではないかなと考えております。

それからもう一つ、先ほどプレゼンテーションのお話がありましたけれども、東京書籍、大変詳しく丁寧にステップを追って書いてあって、いいのですが、何か丁寧過ぎて、小学校の、東京書籍は6年で、教育出版は5年ですけども、何かちょっと、かなり程度が高いかな。それこそ大学生向きな感じがします。

坂根委員 97ページの教育出版の構成表は非常によくできていて、発表の時間まで書いてあるので、そのまま使える感じがします。

横井委員長 それから、うんと言葉尻捉えるようなのですが、東京書籍は、プレゼンテーションの部分も詳しくいいのですが、プレゼンテーションソフトということが書いていないですね。

坂根委員 そうです。

横井委員長 あれ、模造紙に書くのかなと。今の時代ですから、もちろんソフトを使わなきゃ意味ないのですが。全部網羅していませんから分かりませんが、そのページには何か、ソフトを使う

ということは余り強調されていなかったように思う。プレゼンテーションをするというふうを書いてあった。

坂根委員 そうですね。

横井委員長 前提になっているのですかね、プレゼンテーションソフトを使うことが。

それからもう一つ、先ほどから古典についての話が出ておまして、また私、個人的な感覚ですが、百人一首のことを取り上げたいと思いますが、在原業平の「千早振る」とか崇徳院の「瀬を早み」は、皆さんご承知の方も多いと思いますが、落語の題材になっているんですね。きっと昔は、下町のはつつあん、くまさんだって、「千早振る」とか「瀬を早み」ぐらいは、意味は分からなくても知っていたということになるわけですけども、今、子供たちは非常に、そういう点では離れてしまっているような気がいたします。

私が見たところでは、雁部委員さんもおっしゃっていただいたし、光村図書に百首取り上げている。全部取り上げているのですが、百人一首の説明が余り詳しくないです。それから、三省堂は別冊に何首か載っております、少し解説が載っておりますけれども、教育出版にもやはり、4年の下の巻末に説明と、それから抜粋で何首か載っておりますが、その取り扱い方が非常に適切で、ぜひ下町の子供たちの常識としても百人一首に取りかかれるようになったらいいなと思うので、そういったことを取り上げられたらいいかなと思います。

なお、教育出版は6年の上、巻末136ページに、これは伝えられてきた作品ということで、「徒然草」「奥の細道」と、その次のページになりますが、日本の各地には昔から伝わるさまざまな物語や民話、言い伝えなどがあります。皆さんの住んでいるところにはどのようなものがありますかということで、「アイヌ神謡集」、アイヌの人たちの伝承について取り上げてあったり、沖縄の口伝で言い伝えてきた「おもろそうし」というのが出てきて、そういった国語についての日本人の広がりみたいなものを感じ取る上でも、こういったことに目を向けさせることは大切なのかなというようなことを感じました。

私は、いろいろなところから考えて、それぞれよさはありますけれども、現行の教育出版でいいのではないかというように考えております。

何か、ご意見がございましたらお願いいたします。今のところ、教育出版、東京書籍、光村図書あたりが出ました。

はい、雁部委員。

雁部委員 今までの説明をお伺いして、東京書籍、光村図書、教育出版、どれをとっても問題はないとは思いますが、最初の国語の目標に忠実、国語の目標を忠実に再現しているのは東京書籍だと思います。

ただ、教育出版も授業を行っていくに当たって、やはり単元的にメリハリがあって、見ていておもしろいということと、子供たちが見て飽きないのではないかというのが印象を受けました。勉強というのはおもしろいって感じる本でないと、子供たちは途中で嫌になってしまって、勉強する意欲を失ってしまうのではないかと思います。この辺のメリハリという部分については、教育出版でもいいのかなというふうには思いました。

横井委員長 いかがでしょう。

はい、坂根委員さん。

坂根委員 教育出版の5年の下の28ページ。28、29ページで、ここに漢字の成り立ちというの

があります。どの教科にも「漢字の成り立ち」があります。1年生のときから象形文字というのは漢字として出てきて、ここでまとめて、「象形、指示、会意、形声」。この29ページに形声文字、意味をあらわす部分と音をあらわす部分、ここに河原の「河」、水と可能の「可」を合わせて「河」。次に書いてあるのは飼育、「飼」のほうは、食へんに「司」、これで「し」と読むとか、こういうことが書いてあるのです。最後の1行ですが、「このような方法でいろいろな意味の漢字ができるようになりました。漢字の多くはこの方法でつくられています。」とあります。ここがポイントですが、漢字の80%は形声文字ですが、そのことを知らない大学生も多くて、漢字は読めないと思う人がいるのです。こういうことに少しでも触れると、その後の勉強に役立ちます。この字は左が意味で右が音なんだということで読んでいくというような訓練を小学生からつけていけるポイントだなと思い、私は感心します。

阿部委員 私は光村図書がよいと思ったのですが、光村図書は、写真とか絵がとてもきれいで、イメージを子供たちに湧かせるという点ではすぐれていると思います。取り上げているものも、比較的名文とか古文とかを尊重して関心を持たせるような内容なので、個人的には非常に魅力を感じています。ただし、興味のあるお子さんはよろしいのですが、内容によっては少し難しい点が気になります。

そういう意味では、東京書籍や教育出版は非常にバランスがとれていることと、名文を楽しむという以外に、表現するとか、いろんなことを発表したり、コミュニケーション能力を高めるという点でも、東京書籍や教育出版はバランスがとれていると思います。

強いて言えば、全体的には教育出版のほうが若干使いやすいという気がしていますので、光村図書がもし難しければ、教育出版かなという感じを持っています。

横井委員長 雁部委員、いかがですか。

雁部委員 難しいですね。どれも遜色ないので問題ないと思うのですが、どれか決めなくちゃならないとなると、どれにするかということで。

横井委員長 今のところ、話題に出ているところでは、東京書籍か教育出版かということですかね。

坂根委員 私も最初から東京書籍か教育出版かということですので、使いやすさとか、今まで使われてきた皆さんの、先生方のストックといいますか、それがあつたことを考えると、教育出版がいいかと思います。

横井委員長 では、時間もありますので、今までのご意向を考えて、教育出版ということに決定をしたいと思います。よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、国語の教科書は「教育出版株式会社」を採択することといたします。

次は書写になります。では、お願いします。

指導室長 書写の指導事項は、姿勢、用具、筆順に関する事、字形に関する事、点画の書き方、字形の整え方、字の形や大きさ、字配りなどから構成されております。

毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30時間程度を配当することとされております。

硬筆につきましては、毛筆との関連を図りながら指導することとしておりまして、特に、手紙を書いたり、記録をとったりするなどの実際の日常生活や様々な教科の学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方に改善が図られております。

書写につきましては、現在使用している教科書は、「光村図書出版株式会社」でございます。全6者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

どうぞ、雁部委員。

雁部委員 書写については、私は光村図書をお薦めしたいと思います。あとは東京書籍、教育出版もよいかなと思いました。

まず、光村図書ですね。まず鉛筆の持ち方、一応基本的なことを物すごく分かりやすく書いてある。それから3年生、光村図書の3年生6ページ、筆の持ち方が非常に分かりやすく書いてありまして、10ページから12ページは毛筆のところで、力の入れぐあいが清書で、赤字で大変分かりやすく書いてある。それから、4年生になります。学習の進め方、目次ですね。目次から開いていくと、学習の進め方、一番大事な書くときの姿勢、6ページ、点画の種類とか、非常に導入しやすくなっておりまして、見やすいというのが一番いいのではないかと。

日本文教出版ですが、ここもいいのですが、赤字の清書の部分も、4年生、ちょっと色合いが余りよくなくて、力の配分が分かりにくい表示になっていますので、ちょっと見にくいかなと思います。

学校図書、ここは見開きが一番多いということで、毛筆に限っていますが、こういった本を縦にして使ったりとかですね。一番思ったのは、子供たちが使う机は幅が60センチで奥行きが40センチなのですね。多少違いますけれども、平均的な大きさなので。子供たちが書写、どうやっているかという、例えばこういう見本を見ながら書くのですが、大体左側に置いて、右側に道具と半紙とを置きますね。こうやって開くと書けないのですね。どうやって書いていくかという、みんなこうやって折って左側に置いて書く。例えば今言った見開きというのは、非常に字が、半紙と同じサイズになっているものは非常にそのまま見やすいのですが、置くスペース考えると、こうになってしまうのですね。かなりこのスペースは重要で、子供たちはみんなこうやって折って使っていますから、とにかく。大体書いているときに本を落として捨ったりとか、そんなこともやっていますので。本来はこっちがいいと思いますけれども、ただ、あの小さい机でやるということを考えると、どうしてもこっちのほうが使いやすいという発想になってしまいます。

教育出版、三省堂、東京書籍とも、かなり基本と丁寧に取り扱っていて、よいと思います。

ただ、東京書籍については、A B判といいますか、ちょっと幅が広いので、これも見やすいのですが、高学年のものを見てみますと、見開き。さっきも言いましたけれども、こういうふうに見開きになっているところを、今も同じ、本をあけちゃうと、さっきの本よりもかなり幅とります。見開き自体もこれだけ違います。

なので、書写、使いやすさと、あと内容。まず、光村図書は基本姿勢の説明がイラストと写真で分かりやすくなっております。赤字の清書の説明も、力の入れぐあいなど、分かりやすく書いてあります。硬筆も入っていますね。毛筆と硬筆の説明書きが丁寧ですね。量的にもバランスがいいということで、光村図書をお薦めしたいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

坂根委員、どうぞ。

坂根委員 私も光村図書を推薦したいと思います。

まずここに本を並べて分かると思うのですが、「書写」となっているんですが、ほとんどの本が非常にカラフルできれいな中で、光村図書は白黒中心で地味ですが、硬筆、毛筆ともに、書写をするために「落ちついて書く」という姿勢に向かいやすいと思います。余り何か楽しくなくても教科書としてはいいと思います。ほかの科目で楽しい色刷りのものがいっぱいありますので、書写は色刷りが多くなくても良いと思います。

それから、今、雁部委員のお話にもありましたけれども、姿勢ですね。これが写真で、1年から6年までずっと出ています。どの社もあるのですが、東京書籍は少し写真が、判が大きいだけ写真が大きいです。よく見えるといえばよく見えるのですが。三省堂はイラストですね。ずっとイラストです。それも分かりやすいことは分かりやすいのですが、やはり子供には写真のほうが、自分と同じような子供たちだっということ、勉強する気になるかと思えます。

それから、光村図書の2年の11ページ、見てください。10ページ、11ページ。点画のことで、払いの方向というのを、まだ毛筆はやっていないのですが、朱文字で、どういうふうに行くかというのが書いてあります。方向だけ書いてあるので分かりやすいと思います。色を多く使って説明してある会社もありますが、このぐらいの赤だけのほうが分かりやすい気がします。

また、先ほど雁部委員が、机のことで非常に正確なおっしゃって、ありがとうございます。これも同感です。

硬筆と毛筆のバランスについても、硬筆が35で毛筆が32です。硬筆も大事なので、このバランスもいいと思います。

最後に、光村図書は姿勢に注意するときなどに否定的な言い方をしていないです。例えば、「肘が下がらないようにする」と言う点ですね。毛筆をするとき、「肘が下がらないようにする」、「肘は机の上に載せない」、「肘は机の上につけない」という「ない」を言う社がある中で、光村図書の場合は、「軸を立てて持つ」、「真っ直ぐにする」、「肘を上げる」です。軸を立てて肘を上げたら自然とつかないですね、どうしても私たち大人は「何々しないように」とか「してはいけない」という言い方をしがちですが、そういう言い方をしないということは、子供の学ぶ意欲を高めるのではないかと感じました。以上です。

阿部委員 私は、この中で光村図書が一番よいのではないかと考えます。

既にご意見で出ていますように、まず、姿勢について、正面、真横から分かりやすく写真が載っています。各学年とも、その学年に応じた硬筆とか毛筆とか、持つときの姿勢と、それから筆の持ち方なども簡明に説明しているので、そこからまず入っていくということは非常に分かりやすいと思います。

それから、特に私が印象的だったのは、毛筆の、例えば3年の光村図書の11ページから13ページが見開きになっていますが、横画というような筆遣いが、朱筆というのでしょうか、赤い線で、初めに始筆、それから送筆、終筆が、トン、スー、トンというような、子供たちが理解しやすいイメージで書き方をとらえる上で、非常に分かりやすいのではないかと思います。同じような工夫は14ページで縦画でも、始筆、送筆、終筆を赤字で分かりやすく、なおかつイメージがよく捉まえられような工夫がされているように思います。

それに、毛筆と硬筆が比較的バランスよく挙げられている点もよいと思います。あとは、東京書籍は、横幅が少し大きいので、狭い机で書くときに邪魔になることがあるのではないかなと思います。ちょっと東京書籍はサイズに問題があるというふうに思います。

以上、総合すると、光村図書が一番いいだろうと結論付けました。

以上です。

教育長 先ほど、坂根委員あるいは阿部委員も触れておられましたように、毛筆教材と硬筆教材のバランスが必要であると思います。そうした中で、その比率がほぼ同程度なのが日本文教出版と光村図書なのですが、この両者で私は比較しました。

日本文教出版本では、手紙の書き方などが具体的に掲載されて、書くことの日常的な指導につながるかなということ。あと、伝統文化に関連した教材が豊富で、書くことへの関心を高める工夫がされているのもいいかなと思います。

一方、光村図書は、先ほど雁部委員やあるいは阿部委員からもありましたように、基本である鉛筆の持ち方だとか毛筆の持ち方、そういったことが写真やイラストで具体的に取り入れられていることが、非常に全般的に分かりやすい工夫がされているかなと思います。また、2年以上の全巻に、例えば3年生の14ページで、大切という囲みの記事がありまして、学習のポイントが一目で分かるように書かれているので、子供たちにとって、非常に学習上、よいように思いますので、私も光村図書を推したいと思います。

以上です。

横井委員長 もう私が申すまでもなく、光村図書でいいと思うのですが、私も光村図書がいいと思います。

一つは、坂根委員さんがおっしゃったように、字を書くのだから落ちついた雰囲気になりたいというのでは、表紙が落ちついてます。

それから、細かいことでは、例えば4年の、構えの中に何かおまけがありまして、これは子供たちが門構えの字を書くときに、門構えも書くし、中の部分も書くのだけど、バランスがよくないので、何となくおかしいなということがありますがけれども、そういう点では、これもいい工夫だなと読んでいて思いました。

それでは、書写については、「光村図書株式会社」に採択することといたしますが、よろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 では、書写については「光村図書株式会社」を採択することに決定いたしました。

それでは引き続きまして「社会」について審議いたします。指導室長、ご説明お願いいたします。

指導室長 それでは、社会の目標につきましてご説明いたします。

社会の教科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」となっております。

学年の目標においては、調べたこと、考えたこと「を表現する」と改められ、課題解決学習・言語活動の充実が重視されています。本区の児童自身が「自ら調べ、課題を追究する学習」がいかに実施しやすいかといったことも考慮していただき、ご審議いただければと考えます。

社会の現在使用している教科書は、「教育出版株式会社」でございます。

全4者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様、ご意見がありましたら、どうぞ。

阿部委員 先に結論を申し上げますと、教育出版を推薦したいと思っています。

社会科では、我が国の国土、歴史や文化に対して理解と愛情を深めていく、それから、社会的な事象に関心を持って考察し、理解しながら課題を探究していく力を育むことにありと理解しています。

具体的には、このような目標から、まず、3・4年生のスタートで、身近な自分の住んでいる地域の地理とか、産業とか消費の生活、あるいは安全のためにどんな活動がされているかということ、最初に学んでいきます。5年生に入ると、国土あるいは自然環境、特に自然災害の防止などについても学ぶ一方で、各種産業とか情報社会の進展を学んでいます。6年生に入りますと、前半で我が国の歴史あるいは歴史的ないろいろな文化の発展を学びます。6年の後半で、日常生活を通して社会の構造とか、あるいは日本の憲法や政治システムを勉強し、さらに、日本と国際関係を結んでいる各種のいろいろな国とか組織、国連の活動などを学ぶようになっていきます。

今申し上げたような学習は、問題解決的な学習と言われているようですが、そういう視点でいろいろな課題に取り組みながら、自分の意見をまとめ、発表するという力を養うような学習がとられているようです。選択する対象の4社にあっても、いずれも問題解決型の学習のスタイルをとっていて、単元ごとに与えられた課題を調べ、そしてまとめて発展させるというような段階的に進む学習方法をとっています。4社とも内容を拝見したところ、基本的にどの教科書を使っても問題ないと考えています。

ただし、それぞれの会社でやはり特色があって、単元ごとにいいと思うところと、やや不満だなと思うようなところがいろいろ混在していて、一長一短というか、なかなかどれかに絞るとするのは難しいのですが、選択のポイントは、なるべく平易に書かれていて、社会事象に興味を湧くような内容であること、それから、できれば墨田区の歴史や文化を学ぶ上で、墨田区にゆかりのある人物とか情報が教科書の中に載っている教材が望ましいのではないかなという点を重視して、一番バランスがとれているという点で、教育出版をお薦めしたいと思っています。

若干、各社の特色や気づいた点を申し上げたいと思います。まず東京書籍ですが、いずれも学年で上下版になっていて、比較的持ちやすいという特色があります。

やはり問題提起型の学習をとっており、単元ごとに、つかむ、調べる、まとめるというような流れで学習が進んでいて、非常に分かりやすいと思います。

写真やイラストとか図版も多くて、情報量は比較的多いほうではないかと思っています。ただ、少し気になった点は、キャラクターを使って説明したり、ガイドしているのですが、6年生でもドラえもんマークが使われ、子供たちには楽しいとは思いますが、高学年の段階になってもドラえもんマークがいつも出てくるというのは、個人的には少しうっとうしい印象を持ちました。

それから、3・4年生でスタートのときに、最初に取り組む身近なまちとしては仙台市を取り上げています。

そのほか、5年の農水産業、あるいは日本の工業等についてはよく説明されてまして、情報化社会に関しても、テレビ放送とか新聞を取り上げていますので、非常にバランスがとれているなと思います。

若干気になったのは、6年生の上で歴史を学ぶところで、問題解決型の学習ということで、同じような方法がとられているのですが、歴史の場合には、初めて子供たちが学ぶ場合に、余り予備知識がない段階でいきなり問題提起をされても、なかなか分かりにくい点があるのかなと思います。その点、東京書籍は、問題提起が、時代の流れというよりか人物を中心に説明して、その相関関係を考えさせ

るような部分があって、ちょっと分かりにくい点があるのかなという印象を持ちました。

それから、2番目の教育出版ですが、これも分冊になっていまして、持ちやすいという特色があります。

これもやはり問題解決型の学習で、3段階に進展していくような構成をとっており、非常に分かりやすいと思います。

この教育出版も写真とか図版が比較的多いほうで、説明も丁寧で分かりやすい特色があると思います。

3年生でスタートするときの身近なまちとしては横浜市を取り上げています。

5年生で日本の領土とか、地形とかの説明が始まりますが、教育出版の場合は、北方領土や尖閣、竹島というような問題について、比較的良好に説明をしている教科書ではないかと思っています。

それから、特筆すべき点は教育出版の5年の上の157ページをごらんいただきたいのですが、世界に誇る日本のものづくり技術というところで、高い技術の結晶として東京スカイツリーがどのようにしてつくられているのかという説明が引用されています。これは特に本区にあるすばらしい施設です。子供たちが関心を持てる題材ではないかと思っています。

また、情報化社会に関しても比較的に詳しい説明がありまして、情報の生かし方とかルールなどについても触れていますので、これは非常にいい点だと思います。

あと、6年の歴史では比較的に問題設定が分かりやすいので、問題解決型の学習でも時代の流れがつかみやすいのではないかと思っています。特に歴史の関係では、教育出版が例えば6年の上の118ページ、これは戦争と人々の暮らしのところで、戦火に焼けた日本ということで、まず大きな写真が、ちょうど隅田川と墨田区の焼野原と、それからほぼ同じ位置から現在の様子ということで、まちの大きな変化を比較できるような写真に、たまたま墨田区の題材が用いられている点子供たちに分かりやすいのではないかと。さらに、同じ本の116ページに関東大震災と後藤新平の話題が載っていますが、ここにも防災公園としてつくられた隅田公園の写真が載っていますので、こういう点からも、本区に関する話題を十分取り上げているという特色があると思います。

次に、光村図書の場合は5年、6年が1冊になっていて、ちょっと持ち運びに重くて不便ではないか。社会の場合は、もちろん一旦習ったものをもとに戻って学習する機会もあるとは思いますが、そんなに頻繁に戻ることは社会科の性質上余りないと思いますし、特に6年は前半が歴史で後半がいわゆる公民のような分野になると思いますので、1冊で1年間持ち歩くには、子供たちにとっては重過ぎるのではないかと思っています。

それから、これもやはりホップ・ステップ・ジャンプという形の3段階で学習を進める問題解決型の方法をとっています。全体的に写真とかイラストは非常に鮮明で整理されていますが、情報量がほかの教科書会社と比べると少ないように思います。文章は非常に簡潔に歴史や社会の事象を説明しているのですが、多少授業で補っていくことを想定してつくられているような気がします。

3年生のスタートのときの身近なまちの題材は横浜市を使っていて、この点は親しみやすいと思います。

なお、5年生で扱う領土や領海、あるいは自然現象に関しては、若干情報量が他社と比べて少ないように思いました。

続いて、日本文教出版ですが、これもやはり問題解決型で3段階に学習をするという方法をとられています。

日本文教出版も図版やイラストが比較的多くて、情報量が多いように思います。ただし、説明が詳細で、使われている用語も他社と比べると多いので、興味のあるお子さんには参考になると思いますが、若干難しいかなという印象を持ちました。

あと、3年生でスタートする身近なまちは姫路を使って説明しているのは、関西のほうなので、若干関東のお子さんになじみがないのかなという点も気になりました。

日本文教出版の特色は、非常に新しい話題を意欲的に取り上げていて、昨今新聞で出たような題材、例えば5年生の上の44ページに、日本の海底資源ということで、排他的経済水域とかメタンハイドレート、レアメタルなどという話題を取り上げているのは非常に魅力的ですが、子供たちが学ぶには少しレベルが高過ぎるかなという印象は持ちました。

また6年の歴史に関しても、情報量が他社と比べて多いと思います。特色は、墨田区ゆかりの勝海舟について、6年生の上の105ページで、学習資料というところに勝海舟と坂本龍馬ということで、他の教科書では江戸城の無血開城の写真等が載っている位のことが多いのですが、勝海舟がどういう役割を果たしたかということや文章できちんと説明している点は、他社にない特色ではないかと思えます。

そのほか、いろいろな政治とか、あるいは世界とのつながりの面でも、非常に詳しく説明しているので、魅力的な本ではないかなと思います。

そこで、これらの中で、私がなぜ教育出版に絞ったか、簡単にまとめてご説明しますと、まず本の外形からして、先ほど申し上げたように、光村図書は1年間使うには持ち運びが大変かなということで、ちょっとこれはマイナスかなと思います。

内容については、今申し上げたように、各社で特色があっていいところと不満なところがあります。強いて言えば、光村図書の教科書は写真が大きく鮮明なのは魅力的ですが、他社と比べて情報量が少ないのかなというふうに思います。

それから、日本文教出版では、社会の3年生の身近なまちな生活ぶりを調べるところのスタートが姫路で、関西なので少しなじみが薄いということと、5年生で扱う工業や情報化社会の問題についても阪神工業地帯の会社の情報とか、京都新聞という関西系の例を取り上げていて、若干子供たちにはなじみにくいのではないかなという点が気になりました。

ところで、昨今いろいろ話題になっている領土・領海等、日本の国土について学ぶのは5年生からですが、これについて各社ともそれぞれ取り上げているのですが、領土や領海の問題を詳しく取り上げているのは教育出版だと思います。例えば教育出版の5年生の上で、その問題が出てくるのは10ページで、人工衛星から見た日本の位置関係、近隣諸国、それに与那国島とか沖ノ島、択捉、南鳥島の写真が載っていることと、それから12ページ、13ページで、北方領土の問題、あるいは竹島、尖閣の問題が、歴史とともに述べられているという点で特色があります。そのほかにも、43ページの囲み記事で、北方領土の問題に触れています。同じく82ページで、水産業の関連で北方領土の問題について漁師さんの話を載せています。こういうようなことで、教育出版は日本の領土・領海ということについて、ほかの教科書会社より分量を割いて説明をしているようです。光村図書や日本文教出版は、その点の分量は、教育出版と比べると少ないような印象を受けました。

それからあと、日本文教出版の本は全体に説明が詳しいことと、いろんな事象を意欲的に取り上げているというのは非常に魅力がありますが、若干消化不良を起こすおそれがあるのではないかなという心配を持ちました。

また、東京書籍と教育出版を比べた場合に、両社とも写真やイラストを十分使って問題解決の学習を進めている点は非常に魅力を感じますが、歴史に関していうと若干東京書籍の問題提起の仕方が分かりにくいのかなという印象を持ちました。その点、教育出版のほうは問題提起が時代の流れに即して分かりやすい設定なので、バランスがとれているように思いました。

最後に、墨田区ゆかりの事象について、先ほど申し上げましたように、勝海舟については日本文教出版が取り上げている点は魅力があるのですが、教育出版のほうはスカイツリーについて、日本の誇りになるような技術が使われているという点の説明と、歴史に関しては、戦災の写真とか、あるいは隅田公園の写真等があって、墨田区にゆかりのある題材が使われているという点が魅力的だということを考えて、総合的に教育出版が一番バランスとれているということで、教育出版をお薦めしたいと思っています。

以上です。

雁部委員 私も教育出版か東京書籍かというところです。

まず、教育出版。

3・4年の下を見ていただくと分かりやすいんですが、グラフとかデータが多くて見やすく出ているというところは、目標の中に地図や統計などの資料から必要な情報を集めて読み取る力を育てて書いてあるので、こういう点については、やはりグラフとかそういうデータが見やすいということが一番だと思うので、その点はすごくいいと思います。

あとは、環境問題に配慮していることと、6年の上、先ほど阿部委員さんからも説明がありましたが、歴史をまとめる問題、あるいは、單元ごとにもっと知りたいという項目があるのは、勉強意欲をそそいでいいかなと。

同じく6年の上の128ページ以降、戦争の悲惨さを訴える十分な資料、写真が載っていて、特に私は思ったのが、教育出版の6年の上128ページ、ちょうど空襲、多分B29が何かだと思うんですが、空襲を受けて、これを受けているのは神戸なんですけれども、ただ、こういう恐ろしいことがあったんだということは子供たちには伝えていかなきゃいけないことなので、こういう写真はいいと思います。130ページの火炎放射器、あるいは原爆ドーム、この辺の写真が少し大き目に載っているのはいいのかなと。

ただ、全般的にやや難解な部分があるので、全部やろうとするとちょっと無理があるところもあると思うんですが、その辺は学校の先生に頑張ってもらって教えていただく。

東京書籍なんですが、やはりこれも地図、あるいは取り上げている題材が関西から西日本が多いというのはちょっと気になりました。あと、ドラえもんが随所に出てくるんですが、低学年の場合はいい、まあいいかなって感じですけども、高学年もドラえもんをずっと使っているんで、愛嬌はあるんですが、教科書にこういうのはどうかなというのは感じました。

それから、日本文教もやはり関西系の題材が多くて、日本全体のことを勉強するので問題はないんですが、ちょっとその辺は、墨田区で使うのは残念かなと。ただ、6年生の上130ページ、富岡製糸工場で、世界遺産になりましたので、ここはタイムリーな取り上げ方をしたと思います。

光村については、特に国語も同じ傾向なんですけれども、3年生のあたりになってイラストが多いんですね。3年の下なんかは何を伝えたいかというのがよく分からないんで、この辺はもう少し目標をはっきりするということが大事かと。重い割には、ちょっと情報量が少ないという点で、一番いいのは教育出版かなというところでございます。

坂根委員 私は、ちょっと迷って、教育出版か東京書籍かというところなのですが、東京書籍をまず第一に推したいと思います。

今までおっしゃったことに関することとは別の面で申し上げますと、情報に関することで、いろいろの社が書いています。東京書籍の5年の下97ページ、情報モラルチェックシートというのがあります。ここに至るまで、情報社会のことに関して、放送局、新聞社、いろいろな調べるものを、新聞社の働きとか、放送、報道のこととか。最後にここで情報、67ページ、モラルチェックシートで自分でチェックします。「パスワードを大切に作る、他人のパスワードを尋ねたり使ったりしないとか、怪しいメールに返事をしたりしない」とか、「チェーンメールを無視するとか、ネットショッピング」、かなりこれ、15項目にわたって書いてあります。5年の下ですけれども、これは今すぐにでも、3年、4年でも必要な形ではないかと思えます。そういうところが大変いいところだと思います。

それから6年で、6年の下で各社、つながりの深い国というのをいろいろ調べています。ちょっと6年の下で、各社大体どういう国を調べているかという、アメリカ、中国は必ずあります。それから、韓国とサウジアラビアとブラジルは、各社によって少しずつ違ってきます。

東京書籍の場合は、アメリカと中国、韓国、サウジアラビア、それぞれ、サウジアラビアの大使館の人に聞いたりしています。ただ、それが終わった後に、東京書籍6年の下107ページに「生かす」という単元に「遠くて近い国トルコ」というのがあります。ここでは、やはり長くて深いつながりのある友好国との未来をということで、見開き2ページ、友好国トルコに関して書いてあります。この中で、エルトゥールル号という、120年ちょっと前に串本で、和歌山県串本で、これ、軍艦ですね、それが沈没し、それを日本人が助けたということに関して大変感謝しています。120周年の行事、慰霊式も行われたり、そういうことが書いてあります。

教育出版にもちょっと触れてありました。6年の上107ページです。囲みで、そんなに大きくありませんが、こういう友好的な国というのを取り上げることは必要だと感じています。

それから、この取り上げ方は日本文教出版が非常におもしろいことをしているのです。日本文教出版6年の下、例えば54ページ、つながりの深い国。文教出版はアメリカと、それから中国と韓国、ブラジルですが、54ページのアメリカのところ、「ハロー」、それから始まり、国旗があって、面積、人口、首都、主な言語は括弧になって書いてありません。これは、本人が調べてここに書く形にしている。まさに課題解決型の学習で、ここはなかなかおもしろい書き方だなと思えます。

それから、光村図書の6年です。193ページ。光村図書は、アメリカ、韓国、これは中国、アメリカ、サウジアラビア、ブラジルです。193ページの「ブラジルってどんな国だろう」とあって、ブラジルの旗があります。そして旗に、皆さんもご存じだと思いますけれども、地球の形と旗の真ん中に字が書いてあります。これは、サッカーがブラジルで行われてもほとんどメディアって取り上げられていないのですが、この字ですね。「秩序と進歩」というので、「ORDEN e PROGRESSO」というのを翻訳して書いてあるのですが、こういうのを書いてある教科書は初めて見ました。詳しいところでいいかと思えます。

あと、5年生で自動車工業について詳しく各社とも調べています。ジャスト・イン・タイム方式というトヨタの、これについても各社とも書いてあります。東京書籍はちょっと見つからなかったのですが、私の見落としかもしれません。

それから、先ほども出ました尖閣と竹島の件では、教育出版が「日本固有の領土」とはっきり書いています。日本文教出版が「領土をめぐる課題」、「領土をめぐる問題」と光村図書と東京書籍が書

いています。

それから、東京書籍の6年の上107ページ、ここでは女性が2人、写真に載っています。津田梅子と新島八重で、なかなか女性が載っている写真が少なく、女子留学生5人ぐらい、5人のはあったのですが、それは一つのかたまりとして、平塚らいてう、それから与謝野晶子、津田梅子ありますが、新島八重が出て、テレビドラマのおかげでしょうか、ここにふさわしい2人が載っていますので、そういうことも一つの基準になっております。

あとは、いろいろ皆さんがおっしゃったことがありますので、そこまでにいたします。

教育長 今も各委員から各社の特徴というのが説明されていますので、簡潔にちょっとお話しさせていただきます。

まず、光村図書出版ですけれども、これは問題解決型のつくりとなってよろしいんですけれども、やはりこれは、ほかの委員からありましたように、5年、6年が合冊になって、非常に重くて扱いづらいかたという印象を持っています。

日本文教出版は、各單元ごとに学ぶ上で必要不可欠な社会用語をキーワードとして解説しているので、非常に子供にとってはいいです。これは私の印象なんですけれども、全般的に覚える事象を太字で表示しているということで、今まで社会科の暗記というイメージがあると思うんですけれども、そうした中で、問題解決型主流の今の教科書から少し違和感があります。

そうした中、私としては東京書籍が教育出版かというところですが、なかなか甲乙つけがたいです。例えばスカイツリーについては、東京書籍は5年下の表紙に、イラストですけれども、示されている。それから、教育出版では、先ほど阿部委員からもありましたように、5年上巻の157ページで、具体的な日本の高い技術の結晶として詳しく紹介されている点が、墨田の子供にとっては誇らしくて興味の湧く内容となっている点がいいかなと思います。

そうした中、最後に日本の領土をめぐる問題について各本を比較しますと、いずれも北方四島に関する記述は詳しく書かれているんですけれども、いわゆる竹島と尖閣の問題については、東京書籍、光村図書、日本文教出版の3社は不法占有や相手国の領土主張の事実を記載しているだけで、教育出版は、実際に開いていただきたいんですけれども、5年上の14ページ、囲みの中なんですけれども、今の中国や韓国との状況、これが囲みの中はかなり詳しく書いているのは教育出版だけなので、子供たちにとって、今の竹島と尖閣諸島の問題について理解に供せるのではないかと思います。

そうしたことから、私としても教育出版がよろしいというのが私の結論です。

以上です。

横井委員長 ありがとうございました。

私も、教育出版でもいいかなとは思っているんですけれども、捨てがたいのは日本文教出版ですね。

先ほど阿部委員さんからのご指摘がありましたように、墨田区の大切な人である勝海舟について、歴史の教科書にはなかなか出てこない。江戸無血開城のときの挿絵にちらっと載るぐらいなのが多いにもかかわらず、先ほどもお話がありましたようにフルページに、本当に、勝海舟と坂本龍馬が並ぶと坂本龍馬のほうがウエイトが高いのが普通なんだけれども、これは勝海舟が7行、坂本龍馬が5行ですから。多分、実際にも勝海舟のほうが本当は影響力あったんじゃないかと思うのですが、その後の展開で薩摩・長州のほうが強くなりましたから、どうしてもおろそかにされがちになります。この後に、112ページに相関、人物関係図というのがあって、ここにも、幕府の代表として勝海舟、薩摩・長州で活躍した人たち、公家で岩倉具視が並列に載っているというふうなことが、これも非常

に扱いは、特に墨田区民としては、勝海舟をもっと意識する上で重要な手がかりになるんじゃないかなというようなことを感じております。東京書籍にも人物関係図が載っているんだけど、ちょっと混乱するかなと。人間関係が分かりにくい。勝海舟の立場から見ると、ちょっと違うなという感じがいたします。教育出版は、先ほど無血開城の絵しかないですね。

それからもう一つ、日本文教でいいなと思いましたが、3・4年の下巻の地域の発展に尽くした人たちということがあるんですけども、そこに、106ページに「稲むらの火」という話が載っております。これは、ご承知の方も多いと思いますけれども、大津波が来たときに丘の上の稲むらに火をつけて津波で海辺に行った人たちを呼び集めるという、昔、戦前の国語の読み物の中にあっただけですが、これが今忘れられておまして、大津波が来て潮が引くことがあるわけですけども、そうすると、何だろうというんで、そこに行って巻き込まれたなんていうのもかなり以前の津波のときにありました。ですから、そういったことを意識させる上では、こういったことを忘れないようにしておくということが大事だと思うんで、そういった意味では日本文教の、地域の発展に尽くした人としての五兵衛という、お話の上では五兵衛ということになっていきますけれども、そんな話が載っているのは大事。これからいろんなところで大地震が起こる、大津波が起こる可能性があると言われておりますので、大事かなと思いましたが。

それに関連して、東京書籍は同じ3・4年の下で、地域の発展に尽くした人としては、通潤橋という、これも用水の石橋、アーチ石橋をつくった人の話が載っている。103ページですけども。これは、台地で開けたところに水を送るために、うんと上流のほうから谷を渡して用水を引いてくるという話で、東京でいえば玉川上水に当たる話ですから、子供たち、玉川上水の勉強をする上でも参考になると。その上、玉川上水は台地をただずっと掘ってきただけですけども、通潤橋の場合は谷を越えるためにサイフォン式の水路をつくっているというのでおもしろいんですけども。

そういったことで、先ほどの「稲むらの火」みたいな話とか通潤橋みたいな、そういうトピック的なお話は子供たちが歴史に関心を持つ上で非常に重要なんじゃないかなということ。地域や歴史に関心持つ上で大事じゃないかと。教育出版の場合は、それに当たるものが横浜関内の干拓の話みたいなものだったり、光村図書は安曇野の拾ヶ堰という堰をつくる話であったり、それはそれでももちろん意味はありますから、それで構わないんですけども、何か考えてもいいかなというように思います。

それで結論としては、今、皆さんからお話がありましたように、教育出版がいいかなと私も思います。それは、積極的な点に評価する点としては、例えば6年の歴史で、江戸時代の町人の文化の中に江戸博が載っていたり、北斎、相撲や花火について紹介されております。それから、何といても、5年の上巻の157ページのスカイツリーの話とか、阿部委員さんからも紹介ありましたように、その前に震災の後の隅田公園の話とか、大事なことからいいと思いますので、教育出版でいいかなと思います。よろしゅうございますか。

ただ、私、非常に気になっていることがありまして、6年の、教育出版の6年の下ですけども、教育出版6年の下43ページ。先ほども委員の皆様いろいろご紹介いただいている、日本につながるの深い国の紹介があって、調べるになっているのですが、お隣の国、韓国について調べるのはいいんですけども、この中の43ページの本文のちょうど真ん中辺、「一方で」というところからですけども、「一方で、戦争などにより韓国の人々に大きな被害を与えたこともありました。」と書いてあるんですね。これだけ読むと、日本と韓国が戦争して、韓国に何か被害を与えたようにも読み取れますよね。そういう誤解を生じるおそれがあると私は思っております。

それで、また教育長さんのほうでいろいろよくご検討いただいて、表現が適切かどうか、このままで表現が適切かどうかということをご検討いただいて、もし問題があるとすれば出版社に何らかの訂正を要求していただくかすると。それから、このままもし使うとしても、これについては誤解のないような指導ができるような手だてを何か講じていただく必要があるかなというふうに思うんだけど、いかがでしょうか。

教育長 例えば同じ教育出版の6年の上の歴史ですが、111ページ真ん中から下、「この後、朝鮮の人々は独立を目指して立ち上がり、日本の支配に反対する運動を粘り強く続けました。」という、書いてあるんですね。

確かに今、委員長おっしゃって、こちらの43ページの表記というのは何か、これだけ素直に読めば、日本と朝鮮・韓国が戦争したようにね。実際はそうではなく、こちらにあるように、日韓併合条約で植民地支配という形になっているわけですが、子供たちにも誤解を与える可能性はあるので、ちょっとこの辺は、どう指導するか話して必要な対応をとりたいと思います。

横井委員長 子供たちの誤解を生じないような手段を講じていただくということで、教育出版ということにしたいと思います。

それで、よろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、社会科の教科書は教育出版株式会社を採択することといたします。

引き続きまして「地図」について審議をいたします。指導室長、ご説明お願いいたします

指導室長 地図に関わる社会科の目標の改善につきましては、児童が社会生活や我が国の国土に対する理解と自然災害の防止の重要性についての関心を深めることができるようにすること。

基礎的・基本的な知識・技能を活用し、学習問題を追究・解決することができるようにするために、各学年の実態に応じて地図などの基礎的資料を活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育てることとあります。

特に、教科用図書としての地図の活用について、社会科の学習を進めるうえで大切な教材であることや他教科や日常生活においても指導を行い、地図帳を自在に活用できるようにすることが望まれております。

本区の児童が進んで調べ学習に取り組んだり、日常生活においても活用が図れたりするような点についても考慮していただき、ご審議いただければと考えます。

地図の現在使用している教科書は、「東京書籍株式会社」でございます。

全2者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、地図について何かご意見ありましたら、お願いいたします。

阿部委員 私は、現在使っている東京書籍の地図を推薦したいと思います。

帝国書院と東京書籍の違いは、サイズが東京書籍のほうが大判で、少し縦長です。ということは、地図が同じ縮尺であれば、大きいほうがゆったりと、途中で途切れることが少ないわけなので見やすいと思います。実際に比較してみた場合も、帝国書院のものと東京書籍のものでは、やはり東京書籍のほうが広く、同じ見開きのページの中でも情報が広く入っているということです。

それから、実際に見た場合に、東京書籍の文字のほうが子供たちにとっては見やすいと思います。特に、帝国書院は非常に光沢のある紙を使っていますので、細かい文字を見るときに、見る位置によ

っては光って見にくいことがあるんですが、その点、東京書籍は紙の質が光を余り反射しないものを使っているの、使いやすいだろうと思います。

あと、東京書籍のよいところは、巻末にいろいろな気候とか水産業、あるいは工業などの図が大きいことと、比較的に子供たちに見やすいようにデザインされていることです。

また、日本と世界の自然についても、川とか山脈、あるいは山を比較するときも、実際の絵に近いような説明の仕方をしているので、とっつきやすいのではないかと思います。

それから、結構地図は場所を特定していったって、索引を使いながら地図上の場所を探すことが多いと思いますが、この点もやはり、帝国書院は字が紙の幅の関係で小さいので見にくいんですが、東京書籍のほうがゆったりとして見やすいように思います。

あともう一ついい点としましては、東京書籍の場合は巻末の裏表紙を開けると世界地図があって、そこに全部の国のそれぞれの国旗が一覧で見られるんですが、帝国書院の場合は、スペースの関係で、アジアとかヨーロッパとかの地図のところにそれぞれの関係する国の国旗が載っているの、全体像を把握する上では東京書籍のほうが分かりやすいのではないかなと思います。

ちょっと東京書籍で気になる点を1点申し上げると、帝国書院と比較した場合に、帝国書院が一番最初にあけると宇宙から見た日本列島があって、少し先の11、12ページに、日本の領土・領海が一目で分かるような地図があって、その左のほうに領土や領海・領空の捉え方が非常に分かりやすく説明されています。そして13ページから18ページに尖閣や竹島についても写真が載っているのと、日本固有の領土だということが地図上に分かりやすく明記されていて、非常によろしいのかなと思います。この点に関しては、東京書籍の場合は13ページ、日本とその周りということで帝国書院と比較した場合には、領土・領海の説明が若干足りないというか、帝国書院のほうが詳しく明快に説明しているので、この点東京書籍には若干不満があります。

ただ、多分実際に地図を使う場合には、先ほどの5年生の社会の教科書を使いながら、実際にどの場所にあるのかというようなことを地図で見ながら勉強するんだろうと思いますので、両方をあわせて使うことを考えれば、総合的に考えて、東京書籍が子供たちにとっては使いやすいかなという印象を持ちました。ですので、東京書籍をお勧めしたいと思います。

坂根委員 私も東京書籍を推薦したいです。

今、阿部委員がおっしゃったように、紙質とか分かりやすさがあるんですが、ただ、多少問題というところもあるので、まずちょっと、最初から見てくださいけれども。

帝国書院の8ページ、それから東京書籍は9ページです。この地図帳の使い方があるのですが、索引をもって探すというところなんです。東京書籍は9ページ、「どこにある索引」と、漫画で非常に分かりやすく書いてあります。「79ページからの索引を開きましょう。次に、こういうふう探す」と書いてあります。79ページに戻らないと分からないのです。その点、帝国書院は、8ページのところ、ここには索引がないんですが、小さく8ページの下欄に、「索引を使って場所を探そう、僕の住んでいる柏原は」というので、右に柏原の、後ろの索引の部分を持ってきて、ここを探す。そして、上の地図、大阪府とその周りというところで探せるように、この1ページで索引の使い方が分かるようになっているのが、これは分かりやすいと思います。その点で帝国書院のほうがいいというふうに思います。

それから、帝国書院の29ページ、東京書籍は31ページ、32ページです。これは京都、奈良なんです。京都、奈良、帝国書院は29ページの半分。半分ですから、京都は4分の1、奈良も4分

の1。それに対して東京書籍は、これ、見開きですから、京都が1ページちょっとです。間に写真、金閣寺、銀閣、大仏があって、奈良があります。それから、世界遺産も非常に分かりやすく書いてあります。これを見ると、路線図も分かります。どういうふうに電車に乗って、地下鉄に乗って、何線に乗って行ったらいいかというように。これでもうガイドブックにもなるように詳しく書いてあります。これが東京書籍の特徴です。

続いて、東京書籍43ページ、帝国書院が39ページ。ここで東京になります。両方ともスカイツリーは載っています。スカイツリータウン、それから向島も、百花園も載っています。江戸博もあります。ただ、東京書籍にはすみだトリフォニーホールも載っています。それから、東京書籍のほうは、芭蕉の「奥の細道」の旅立ちの地などというのも載っています。漫画がいろいろあるんですが、秋葉原あたりにはこれ、タブレットを持った女の子が見ている、こういう街だという。田端は、これは文士のような人がいます、文士村の意味ですか。巣鴨にいきますと、おばあちゃん、丸髷でしわが寄って杖を持っている。こういうおばあちゃんは、今はドラマかアニメでしか見ないですが、「おばあちゃん原宿」の意味だと思いますが。これは何か東京案内としては非常におもしろく、よくできていると思います。ここで、東京書籍は東京タワーと港区周辺の高層ビル、これが43ページの上のほう、富士山。帝国書院は40ページ、東京スカイツリータウンの主な防災設備ということで、小さいんですが、災害時の無線や食料を備える備蓄倉庫とか、主なタワーの高さ比べというのもあります。こういうところが違います。

あと、国旗のことを阿部委員がおっしゃっていたんですが、国旗を調べるときに、この国旗はどこの国のかを調べるということもあるのですが、あの国旗はどこの国だろうと思って調べる場合には、やはり全部見渡せたほうがいい。どこかで見当をつけて国旗を調べるよりは、全部書いてあるページのほうが分かりやすいということで、お勧めします。

以上です。

雁部委員 私も東京書籍をお勧めしたいと思います。

やはり、地図というからには、ぱっと開いたときに見やすいというのが一番大事だと思います。なので、東京書籍のほうは落ちついた色合いで、割と字もはっきりしていて、見やすくできていると思います。帝国書院のほうは、やはりこれも紙面がちょっと反射する欠点がありまして、黄色は物すごく強いので、ちょっと刺激が強過ぎるのかなということで。

まずは、細かいことは今までお話しいただいたので省略しますが、一つだけ。東京書籍の一番最初、2ページ、3ページめくったところに見開きがあって、何も書いていない地図があるんですけども、まずここから、日本はどんな形をしているんだろうということから、次のページ、5ページ、6ページには山脈が描いてあって、7ページ、8ページへいくと都道府県が描いてあってという、順を追って紹介しているのはとてもいいと思います。

あとは、今、坂根委員さんもおっしゃいました、巻末の世界地図と国旗ですね。これも一緒に提示してあって、いいと思います。

欠点といえば、先ほどからも出ていますが、ちょっと長い、大きいというか。ただ、幅は一緒なので、そんなに使いにくくはないかなということで、東京書籍をお勧めしたいと思います。

教育長 帝国書院のほうは、各ページに他教科で活用できる地図以外のいろんな情報が載っているのがいいのかなと思います。それから、地域別のページにも、その地域の気候だとか地形的な特色など多くの資料が載っていて、それもよいと思います。あと、感心したのは、11ページに、大人でさえ

もなかなか理解ができない、領海と接続水域だとか排他的経済水域など、絵ですごく分かりやすく描かれているのは、非常にこれも工夫があるかなというふうに思います。ただ、索引の字がすごく小さくて、ちょっとこれはどうなのかなというふうに思います。

東京書籍本は、まず、皆さんからありましたけれども、私も紙の質のかげんだと思いますけれども、非常にきれいな仕上がりになっているのが、非常に地図の教科書としてはよいと思います。あと、墨田の特徴的な建造物だとか、先ほど坂根委員からありましたように、いろいろな名所も分かりやすく書いてあるということで、やはり東京書籍本が私もよいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

私も東京書籍がいいというふうに思っております。

帝国書院は、先ほど教育長がおっしゃっていた11ページの領土・領海の定義とありますが、説明が大変分かりやすく、いろいろ問題になっていることについて、子供たちも大人もきっとよく分かる。それからもう一つ、12ページですけれども、なかなか書いてあるのがないんだけれども、千島列島と南樺太は帰属が未定だということを余り日本人は意識していないんじゃないかと思うんですね。ご承知のように、千島・樺太交換条約で、千島は正規の手続で日本の領土になっているわけですから、本来なら手放す必要がないところなんで、まだ帰属未定だというふうなことを意識しておくことが南千島を取り戻す上で非常に重要な前提になる。だから、そういう意味で、これを書いているの。

東京書籍も、カムチャツカ半島と千島の境に線が入っていたり、南樺太のところに線が入っていたりするという意味では同じだけれども、解説が書いていない。ちょっと残念です。意味が分からないですね、子供たちは。

それから、東書が非常にいいなと思いました一つは、縮尺を見ていただきたいので、どの地図でも結構ですけれども、縮尺は普通、帝国書院のように黒い線に目盛りが振ってあるだけなだけで、東書は物差しになっている上に赤い線で1センチのところに印がついているんですね。ですから、縮尺の意味がきっとよく分かる。帝国書院は、地図になれている人ならば縮尺を見てどうこうって判断できますけれども、初心の子供ですから、やはりこの物差しにキロメートルが書いてあったり、1センチがどこかを書いてあったりするというのは、小学校の地図としては非常にいいのではないかなというように感じました。

それからもう一つ、字が小さいとやはり不都合ありまして、先ほど京都の地図の話が載ってありました。東書は31ページ、帝国書院は29ページなんだけど、たまたま私は金閣、慈照寺と鹿苑寺がどういう表記されているかと思って見ておりましたが、帝国書院は「金閣寺」「銀閣寺」って書いてあって、これは今普通にそう言われているから、別にそのままでも構いません。東書のほうは「金閣」「銀閣」というふうに書いてあります、お寺の名前のほかにですね。そのとき、ついで見えたら気がついたんだけど、「慈照寺」「銀閣寺」と帝国書院に書いてあります。そのすぐ上に「しゅうがくいんりきゅう」って書いてあった。

坂根委員 ああ、そうですね。「う」になっていますね。

横井委員長 東書を見てみたら、「銀閣」「慈照寺」の上に「しゅうがくいんりきゅう」となっております。だから多分、帝国書院は字が小さ過ぎて、よく読めないから見落としていたんじゃないかというふうに思うんですけれども、もし親切心があったら、どなたか、訂正を申し入れられたらいいかもしれないと思いました。

いずれにしても、地図は、それでは、東京書籍株式会社の地図を採択することにしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。

ここで、議事の都合により、教育委員会を一旦休憩いたします。

午後1時半より再開したいと思います。

(休憩)

横井委員長 ただいまから教育委員会を再開いたします。

それでは、算数について審議を始めたいと思います。よろしくをお願いします。

指導室長 算数の教科の目標は、算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てることとなっております。

数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能は、生活や学習の基盤となるものであり、系統性を重視しつつ段階に応じた反復による着実な定着を図るとともに、算数的活動を生かした指導の一層の充実が望まれております。

本区の子供が基礎的・基本的内容や算数的活動を通して思考力・表現力を身に付けることができるような教科書が望まれます。

算数の現在使用している教科書は、「日本文教出版株式会社」でございます。

全6者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、ご意見ありましたらお願いいたします。

雁部委員、どうぞ。

雁部委員 6社ということなのですが、まず、総合的な話をします。

まず、算数においては、幼稚園あるいは保育園から入学してくる子供たちに算数は楽しいということを感じてもらうために、好きになってもらうという観点から1年生の教科書、まず導入のしやすさをちょっと見ましたけれども、どこの会社も導入についてはかなり配慮してありましたが、大日本図書だけ、ちょっと導入が難しいかなという感じは、印象は受けました。

それで、まず、日本文教出版なんですけど、A B判でフル活用してあって、ちょっとほかの教科書に比べると幅が広くて大きいんですけども、色使いもきれいで、全体的に物すごく分かりやすく、印象としては至れり尽くせりの教科書かなと。この本を使う子供たちにとっては物すごく分かりやすいのかなと。ただ、先生方の工夫の仕方がちょっと問われる本かな。全てにおいて詳しく載っているということで、その辺がちょっと気になったところです。

日本文教出版、そのまま2年の上の算数ノートをつくるというところ、ノートの作り方から、3年の上から、なるほど算数というコーナーがありまして、これもとても興味が持てる場所。例えば3年の上の22ページ、なるほど算数で、昔の九九というところがあるんですけど、昔の人はこういうふうにやっていたんだよというところが載っていてですね。ただ、おもしろいのが、九九の計算が間違っていて、この答えが間違った答えが書いてあって、やはり昔の人も間違えたりなんかして、いろいろ何度も練習して覚えたんだなというのは子供たちにもこれ伝わると思うので、共感できる部分が

あるというのはおもしろいと思いました。ほかに、5年生、6年生、なるほど算数というコーナーがあって、とても興味深く読めておもしろかった。

ちょっと残念なのが、3年生の下の6ページ、これ、メジャーの使い方を出してあるんですけども、メジャーによってちょっとはかる場所が違っているというのを表現してあるんですが、これ、実寸じゃないんですね。これだと17センチぐらい出ていますけれども、大体12センチぐらいで全部表現できるので。とにかく実寸じゃないんで、こういうの、目盛りがついたものというのは、できるだけ実寸で描けるものは実寸で描いたほうがいいのかなど。

あと、6年生の下の一番最後の68ページ。一番最後じゃないです。ごめんなさい。68ページのマテマランドの探検で、ちょっとゲーム形式になっているんですが、漫画形式で問題いろいろ出てまして。これは、普通、教科書というと漫画、どうだろうと思うんですが、今、本屋さんへ行くと結構、経済の本とか、今はやっているのが「7つの習慣」という本、漫画で、かなり売れているんですけども、やはり漫画でも、こういう理解してもらえると、そういう努力や工夫は必要なのかなと思って、これも少しおもしろいなと思いました。

東京書籍なんですけど、ここも導入がものすごく簡潔にできていていいかなと。

2年生の上、東京書籍の2年生の上の最初のページ、目次から2ページ、目次があって2ページ、学習の入り口ということで、勉強の仕方、これがちゃんと載っております。同じくこのまま111ページ、東京書籍の2年の上の111ページですね。算数自習コーナーというのがありまして、こちらでも自学自習ということで、自分で勉強しなさいという、そういうコーナーがある。これも非常によい点だと。

3年、4年生もかなり分かりやすく書いてありまして、4年生の上、東京書籍4年生の上の60ページ、身の回りの直線とか交わり方や並び方であるんですけども、67ページは平行という欄で本棚とか窓枠とか、身近な例を利用しているのがよいと思います。4年生はそうですね。

あと、5年生の上の11ページ、スカイツリーの写真が載っていて、それに関する問題が載っています。

6年生の28ページ、6年生は1冊ですね。東京書籍の6年生のここ、円の面積のところですね。ここも、始まりは23ページですね。ここから始まって、円の面積の求め方がすごくよく分かりやすく載っております。ほかの本も分かりやすく載っているところはありますが、私はここが一番分かりやすいかなと思いました。東京書籍。

あとは、総じてそんなに問題のある教科書はなかったんですが、啓林館。まず、紙質がよくないので、色がくすんだ感じになっております。わくわく算数という題材、題字なんですけれども、中を見ると、どこが工夫されているんだか、余りわくわく感というか、子供にとって学習意欲を高めるという工夫が余りなされていないような気がします。

学校図書。ここに関しては、本全体が問題集的な要素がありまして、練習によって算数の能力を高めるということに配慮してあるように思います。

細かいこと言うと、学校図書の4年生の下。ここに升目があるんですけども、これは面積や長さの違いは物すごく分かりにくい。43ページが、やっぱりこれ、実寸ではないのがちょっともったいないかなと。学校図書、5年生の196ページ。ちょっと場所が間違っているのかもしれないのですが、やっぱり実寸で、10センチのところは8センチで表現されていて、さっきのメジャーの話もそうなんですけれども、実際に表現しても問題ないところをわざわざ縮めて実寸じゃなくしているとい

うのは、すごくもったいないと思います。

大日本図書、これは各学年1冊ということで、これも同じところを着目して、6年生の64ページ、大日本図書の6年生の64ページ、やはり円の面積なんですけど、ここの三角形なんですけれども、三角形と、63ページと64ページの円の一部切り取った図があるんですけど、半径9センチって書いてあるんですけど、これ、8.5センチぐらいしかないんですね。全然描けない、5ミリなんで、その辺は実寸で描いたほうがいいかなって。ちょっともったいないなという気がしました。

教育出版なんですけど、全体的によくできてはいるんですけど、4コマ漫画、4年生、3年の上、教育出版、36ページ。教育出版3年の上の36ページで、まとめとかこういうところに頻繁に、56ページにもありますけれども、4コマ漫画が出てくるんですけど、ただ、これ、字が小さ過ぎて見づらいので、どうかなと。

同じく、今度は3年の下ですね。教育出版3年の下、最後のほう、118ページ、119ページ、コンパスの使い方が非常によく出ています。ここはよいかと思いました。一番最後の、もう裏表紙のところなんですけど、スカイツリーの写真が、東京スカイツリーの秘密ということで、スカイツリーの写真が載っております。

4年生、教育出版、同じく4年生の上で、概数について、ポイントをつかんで説明してありました。言葉の意味の説明が詳しいところはいいところ。円の面積についても大変分かりやすく、6年生に関しては、簡単なほうから難しいほうに無理なく入っていきけるかなということ。

全般的に見ると、日本文教出版と東京書籍と教育出版に絞られまして、最終的に、一番バランスがいいのかなと思ったのは東京書籍かなと思いましたが、日本文教でも教出でも多分、勉強していくには十分だろうと思います。

横井委員長 ありがとうございます。

では、阿部委員どうぞ。

阿部委員 先に結論から申しますと、私も日本文教出版が6社の中で一番よいのではないかと考えています。

小学校の算数で、まず基本的な算数の考え方や、計算の方法とか仕組みをしっかりと身につけてもらいたい。こういう知識とか計算を、あるいは図形などの概念をきちんと把握し、段階的に少しずつ練習や繰り返しで力をつけていくことによって、取りこぼしとか未消化のことがないように、とにかく基礎的な学力をしっかりと身につけていただきたいと思っています。

6社それぞれの工夫があって特色があるんですけど、墨田区の場合、算数が余り得意ではないような印象を受けていますので、子供たち全体の学力を向上していただくということと、それから、やはり算数は繰り返し学んだことを練習してスキルアップを図っていくということを考えると、家庭での学習が重要な点ではないかと考えています。そういうことから、勉強の仕方を丁寧に教えていることと、学校で習った内容を、家に帰ってからも繰り返し練習できるような点で、親切・丁寧な説明がある本が望ましいだろうと考えています。

その場合、各社それぞれ工夫があるんですけど、既に雁部委員からご説明があったので、簡単に特徴を申し上げます。まず、東京書籍から見ると、東京書籍は本の初めのところに、教科書の使い方をもとても丁寧に説明しています。それから、保護者に対しても、どのように使ったらいいかということも説明を加えていて、家庭学習にも使いやすいのかなというふうに思います。それから、単元ごとに学んだことを、力をつける問題、仕上げ、そして巻末に算数自習コーナーというふうにステップを上げ

て勉強していくということから、家庭でも使いやすいのかなと思いました。

大日本図書ですが、この本も、やはり各学年の初めに教科書の使い方とか、あるいはノートのとおり方などを懇切丁寧に説明してから本が始まるようになっていきますので、これもなかなかよくできた本ではないかと思います。大日本図書の場合は、單元ごとにまとめの練習と、一番最後のほうにレッツトライというところで、家で勉強するときの問題なんかまとめてありますので、使いやすいとは思いますが、問題が「算数たまたまこ」とか、復習問題とか、いろいろ多岐に分かれているので、段階的にどう使うのか、ちょっと混乱するところがあるかなという印象を持ちました。

次に、学校図書。これもスタートのところでは本の使い方を述べていますが、ちょっと学校図書の場合は、使っているキャラクターとかマークが子供っぽいという印象を持ちました。單元ごとにやはり練習問題とか力試し、あるいは巻末に力をつける問題というのがあって、問題の量は比較的多い教科書ではないかと思います。

それから、教育出版ですが、一番最初のところの教科書の使い方等の説明は、比較的簡単だったと思います。單元ごとに、この教科書では、力を伸ばそう、ステップアップ算数、巻末に学びの手引という形で、いろんな要約とか問題が載っています。私が見る限りでは、本のデザインとか中のまとめ方は非常に読みやすくまとめられているので、オーソドックスな教科書だなという印象を持ちました。

続いて、啓林館ですが、啓林館についても、單元ごとに復習とか、次の單元への準備、あるいは練習などが載っていて、段階的な勉強ができるように工夫されています。巻末に「算数島」という表題で問題集等が載っていて、これも家庭学習で使いやすいのかなと。ちょっと印象に残ったのは、6年生の教科書の222ページ以降に、算数卒業研究として中学校で学ぶ数学への導入ということと、算数に興味を持てるように、いろんな数学者のエピソードとか、おもしろいお話が載っていて、算数が好きなお子さんには非常に興味を湧く題材ではないかなと思います。ただ、全体として少しレベルが高いというか、少し難しいかなという気がしました。

日本文教出版ですが、これはサイズが若干ほかのと比べて少し幅広になっています。ただ、それぞれの学年で上下に分かれていますので、持ち運ぶ上では特に問題はないと思います。日本文教出版もやはり教科書の使い方については、本の一番最初でかなり詳しく説明をしています。あるいは、ノートのとおり方も結構詳しく説明をしている教科書です。この本の特色は、開きますと、本の端のほうに薄いブルーの帯があって、その帯の中に多分お子さんが持つだろうという疑問とか迷う点を、懇切丁寧にヒントを与えたり、あるいはガイドしている点が非常に工夫されていると思います。ただ、非常に丁寧にそういう点の配慮があるんですが、逆にお子さんが気づく前に、いろいろ丁寧に教え過ぎているかなという印象もちょっと持ちますが、算数の不得意なお子さんにも非常に分かりやすく解説している点がいいと思います。日本文教のほうも、末尾のほうにステップアップ練習ということで、家庭で学習するような問題集がついていますので、家に帰ってから1人でもう一回勉強するのにも適しているのではないかと思います。

いろいろ特色が各社であるんですが、選ぶとしたら、今申し上げたような点で、比較的易しく丁寧に解説している日本文教出版、あるいは東京書籍が使いやすいかなと。家庭学習の上でも2社が使いやすいのではないかとということですが、強いて言えば、今まで使っている教科書が日本文教出版であれば、使いなれているということから、日本文教出版を使うのが穏当かなと思います。

横井委員長 ありがとうございます。

では、坂根委員どうぞ。

坂根委員 阿部委員から大体のことを、私の考えと似ていることをおっしゃっていただいたのですが、私も日本文教出版が使いやすいと思います。

形は少し大きいのですが、横出しの部分がありまして、そこで確かめることができます。それから、次の学習のためにというのがありまして、4年生の下69ページを見ると、次の学習が分数の仕組みを考えようとなっているのですが、その前に、3年の分数、3年でやった分数に、このテープのようなもので「色のついたところの長さは何メートルですか」と、ここでもう一度復習して4年生に進むことになっています。分数は算数の学習の中でつまずきになるところなので、それをもう一度確かめる方法というのは効果的ではないかと思います。

内容が少し易しいのではないかというふうに思う方もいらっしゃるようですが、自分で自習するにはなかなかいい形かなと思います。易しいと思うお子さんには、今同じ4年生の下に、例えば146ページ、「学びを深めよう」というところがあります。掛け算はもう既に習っているのですが、「不思議な掛け算」というのがありまして、2桁×2桁の掛け算、 $15 \times 15 = 225$ になる。これがぱっと暗算ではできにくいのですが、どうして暗算できるかということが非常に分かりやすく書いてあります。こうすると、ああ、「私もこれでやってみようかな」という気になるのではないのでしょうか。その下に、特別な計算の仕方は、面積を求める方法で説明すると解説しています。算数は習熟度別のクラスになっていますので、ちょっと物足りないなというお子さんには、またこういう使い方ができるのではないかとこのところが推奨できるという点です。

あと、最後の巻末にルビ、日本文教出版にはないのですが、索引がついている教科書が幾つかありまして、特に東京書籍の場合は索引にルビがついているのですね。高学年、4年生の上ですと148ページに索引がありまして、ルビがついています。読み方によって概念を理解するというために、こういうルビつきが必要かなと思っています。

ちょっと戻りますが、日本文教出版の巻末。先ほど雁部委員もおっしゃったのですが、最後のマテマランドというところでは、クイズ形式でいろいろ出ていましたが、6年の下68ページから漫画形式になっています。漫画といってもばかにできない。いろいろな人が出てきます。オイラーとか、パスカルとか、ガウスとか、ユークリッドとか、「ああ、こんな顔しているんだ」と思いながら。関孝和も出てきますね。小野小町が何で出てきたのかという理由も知りました。美しい式という意味で。そういう風に算数・数学に興味を持ってもらえるという点でふさわしいのかと考えました。

横井委員長 ありがとうございます。

教育長どうぞ。

教育長 算数ですけども、私は、内容や構成の面で、基礎・基本の習得に資する、そういった記述が充実をしていて、子供が自主的に学習に取り組みやすく、家庭においても学びやすい教科書が望ましいと、したがって、その観点から比較をしたいと思います。

東京書籍本ですけども、どの学年の巻末にも復習あるいは振り返りコーナー。例えば5年の上巻だと142ページ、143ページなんですけれども、自分の状況に応じて学習した内容を確認したり、調べたりして振り返ることで、基本の定着に資する内容となっているのかなと思います。また、2年以上の巻末には算数自習コーナー、5年だと121ページですけども、これまでの学習を踏まえた問題が多く掲載されていて、授業時間以外の家庭での学習でも取り組めるかなということで、非常にいい点かなと思います。

次、大日本図書本です。4年の教科書を見ていただきたいんですけども、單元ごとに基礎・基本

の定着を図るために、16ページですけれども、まとめの練習という項目があって、扱いやすい分量で練習問題が掲載されているほか、2学年以降の巻頭には、頭には、4年だと4ページ、5ページですけれども、算数の学び方という項目が設けられていて、授業の流れに沿ったノートの書き方の例示があるなど、非常に子供が家庭でも自主的に取り組めるよう配慮されている点が、この本ではよいと思いました。

次に教育出版です。教育出版では5年の本で見ていきたいと思いますが、5年の264ページ。ここに学びのワークという、学びの手引ということがありますけれども、これは、5年という4年までに学んだ学習と5年の学習とのつながりが非常に分かりやすく関係を示されていて、子供たちが自主的に振り返ることができるようになってるのがいい点であります。それから、単元の終わりには、学習のまとめとして書き込むページもあって、いずれも基礎的・基本的な内容を確認できる点がいいかなと思います。

最後、日本文教出版で、6年の上ですけれども、まず、各単元の終わりに、例としては6年のページ、上の45ページですけれども、確かめのポイントということがありまして、学習の内容を確認できるほか、次の47ページには、次の学習のためにということで、次の学習する内容のもとになるそれまでに学んだ事項を設けることで、非常に分かりやすい形になっているのかなと思います。そうしたことで、基礎的・基本的な内容が充実している点がいいかなと思います。それから、2年以降の巻末に、6年の上でいうと107ページですけれども、マイトライという、そういった項目があって、子供の学習状況にそった問題が出されておって、非常に家庭での自主的な学習にも使える内容となっております。

私は、東京書籍か日本文教出版かと思ったんですけれども、比較的日本文教出版のほうが丁寧に書かれているということで、日本文教出版本を推したいと思っております。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

私も東京書籍、教育出版、日本文教出版と、3社ぐらいが妥当かなと思ひまして、いろいろ比較を試みましたが、これまで皆さんおっしゃったようなことと重なりますので簡単に言うと、例えば円の面積についてなんですけれども、東京書籍がやっているのは4分の1の升目を数えるというやり方ですね。それから、もう一つ別のやり方としては、4分の1の円を半分にするか4等分するかして、その三角形の面積幾つ分に相当するかというふうなやり方をしていくと。それをもっと細かく何十等分もして、先ほどのように細い三角形を幾つも集めるというようなやり方もあって。いろいろあったほうがいいことはいいと思うんですけれども、やはり算数が得意でない子供たちにとって、いろいろな考え方を、これでも分かりますね、これでもできますね、これでもできますねというようなことだと、おもしろい子は非常におもしろくなると思うんだけど、得意でない子は、今せっかく2倍と4倍の間というのが分かって、もっと細かく3倍ぐらいだとか分かってきたときに、またほかの、次々にやって混乱させるのもかわいそうかなという気がするんですね。だから、そういう意味で、余りたくさんそういったものが出てこないほうが、初心、得意でない子供たちにとってはいいかもしれない。そういう意味で日本文教、現在使っている日本文教でいいかなと思います。

じゃあ、得意な子たちにとって物足りなくなるんじゃないかなというふうなことになる、ご指摘があったように、その巻末なり、結構おもしろいことも載っていて、関心のあるお子さんなら自分で読んで、あるいはご家庭に帰ってご家族と考えると、やれるようなことがいっぱいあると思います

ので。

得意でないお子さんたちが自信を持っていけるようなという意味で、今の日本文教でいいのではないかなと思っておりますが、皆さんのご意向も大体そんなふうなところと考えてよろしゅうございませぬかね。

どうぞ、坂根委員。

坂根委員 私も日本文教出版を薦めたのですが、一つだけ、3年生の上に、これは算数ではなくて日本語の問題で引っかかることがあります。3年生の上の50ページに「時間と時刻」という部分があるのですが、「次の問題を読んで時刻を守るにはどうすればよいか調べましょう」というのがあって、駅から、家から駅まで10分かかり、駅と駅の間、電車は15分で、お父さんを駅に迎えに行くのは何時何分までに家を出ればちょうどよいですかとなっています。時刻表というのもあります。ちょっとこの言い方が気になります。ここは時間と時刻という單元なので、無理やりにここに「時刻を守る」と言ったのでしょうが、時刻というのは、こういうときには使わないでしょう。抽象的な時刻ではなくて、集合時刻を守るとか出発時刻を守るとかという言い方をしたいと思います。この言い方は「間に合うようにするには何時何分に出ればいいですか」とか、ほかの言い方をした方がよいと思います。この辺は使うとき、または出版社のほうでも少し考えていただきたい表現の問題点です。

横井委員長 その辺はどうですかね。

坂根委員 主たる問題ではないですが、ここの言い方が気になります。

横井委員長 そうですね。3年上の50ページの設問に当たる、設問というか問題意識を持たせるところの「時刻を守るには」の「時刻」が、「時間を」のほうがよいということですか。

坂根委員 そうですね。だから、時間に間に合うようにするにはとかですね。

横井委員長 これは釈迦に説法ですけれども、時間は長さで、時刻は時間の流れの中の瞬間瞬間をあらわすことですから、時刻を守るという、例えば、この時刻表のどこかの電車に乗るためには何分前にどこかに着きたいからというふうな意味で、時刻ということをあえて使っているのかもしれないので、その辺が適当かどうかはまたご検討いただいて、どこかで必要があれば指導をするということになると。

坂根委員 そうですね。「時間に間に合うようにするには」とかですね。

横井委員長 ですから、これは、タイトルからもあるように、時刻と時間というふうなことを強く意識させるために、あえていろいろなところで。例えば、普通、我々は日常の生活の中では、時間も時刻も、何分とかというふうな言い方をしてしまうけれども、うんと厳密に言えば、時間の場合は何分間とか何秒間とか言うべきだというふうなことも言えると思うんですね。だけど、だから、国語的な言語習慣と算数的な術語としての使い方については、またどこかしかるべきところできちっと指導して、教科書ではこう書いてあるけれども、普通は「何分間」のことを「何分」と言うことも多いですとかというふうな指導がされれば。

坂根委員 そうですね。同じく51ページの、短い時間の1「ミサキさんとサクラさん、それぞれ何秒間かかりましたか、何秒かかりましたか」と。ここの今の何分かと同じことですね。

横井委員長 だから、厳密には多分「何秒間かかりましたか」のほうが正しいってことですね。だけど、日常生活の中では、「何秒間」のことを「何秒」と言っているということも。両方必要です。

坂根委員 はい。

横井委員長 またその辺については、算数部、数学部でよく研究をしていただいて、適当なご指導を

いただければと思います。

坂根委員 その学校内なり墨田区内で統一した形になれば混乱しないというふうに考えています。

横井委員長 それでは、算数につきましては、日本文教出版ということで決定をしたいと思いますが、異議がないでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 では、算数は日本文教出版を採択することにいたします。

では次に、理科について審議いたします。よろしくお願いいいたします。

指導室長 理科の教科の目標は、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うこととございます。

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに観察、実験の結果を整理し考察する学習活動を充実させて、自然と生活との関連させることを重視しております。

本区の児童が、観察、実験をもとに問題解決的な学習に取り組みやすく、資料や写真などから自然等の理解を深める教科書が望まれます。

理科で現在使用している教科書は、「教育出版株式会社」でございます。

全5者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

では、坂根委員どうぞ。

坂根委員 私は、東京書籍が理科として適当だというふうに考えています。

具体的な例を申し上げますが、問題提起の仕方が適当だと思います。実際に見ていきますが、6年生の東京書籍、169ページ。この教科書はかなり問題というのが大きく書いてあります。

発電のこと、電気をつくるということなんですが、電気をつくること、ためることなんですが、東京書籍だけが、この169ページ、自分たちで発電することができるのだろうかというところから始まって、モーターも軸を回して明かりをつける、豆電球の実験をしているんです。その結果、173ページに、明かりがついて、つくった電気を、コンデンサーなどを使うとためることができ、充電できるというふうにして、そして手回し、コンデンサーにつないで、手回し発電機をコンデンサーにつないで蓄電するという形になっております。

ほかの会社を全部調べましたのですが始まりが違います。どこも、例えば教育出版の6年の163ページ、これを見ると「電気はどのようにしてつくったりためたりすることができるのだろうか」というのですが、既に手回し発電機で電気をつくっていて、コンデンサーで電気をためることができるかどうかとなっています。いきなり手回し発電機になっています。あと3社も、大日本図書、学校図書、啓林館も同じ、手回し発電機から始まっています。

ですから、東京書籍は最初に「電気を発電することが自分たちでできるかどうか」というところから始まっていて、その問題提起の仕方はよいのではないかとここで考えました。これは一つの例ですが。

それから、東京書籍の6年の巻末のところ197ページに、かなり詳しくノートの書き方があります。理科の調べ方を身につけよう、ノートの書き方。次、話し合いの仕方があります。これは国語、ほかの科目とも関連ありますが、言葉を使って話すことの重要さが書いてあります。顕微鏡の、それから道具の使い方、それから扱い方。扱い方というのは、薬品や溶液ですね。使い方と扱い方、そう

ということもかなり分かりやすくなっています。また、208ページには、算数の学習を活用しよう。比例・反比例とか、てこの決まりということがあります。これが良い点の一つです。

次に、少し前に戻りますけれども、東京書籍の4年生を見てみます。これは目次のところを見ていただくと、1ページのところに「生命」というのがあります。ここで、1「暖かくなると、暑くなると、涼しくなると、寒くなると」となっています。これは生き物の1年を振り返ったまとめなのですが、この表現が「暖かくなると、どうなる」というふうに考えさせる言い方になっています。

他社も見ましたが、例えば啓林館だと「夏の生き物」とか、大日本図書「季節と生き物」、教育出版「季節と生き物」。学校図書は「暖かくなって」次は「涼しくなると」変わっています。「暑い季節。暖かくなって、暑い季節、涼しくなると、寒さの中で」と少しずつ変わっています。同じ表現ですけれども、こういう表現の細かいところから考えさせるのも適当ではないかと考えます。一部ですけれども、こういう点で良さということを説明いたしました。ご検討をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

では、阿部委員どうぞ。

阿部委員 結論から先に申し上げますと、私の個人的な意見としては、学校図書をお薦めしたいと思えます。

学校図書の次は、東京書籍か教育出版が非常に感じとしては似ているイメージがあって、いずれでもいいかなと思います。

理科につきましては、やはり問題解決型で、まず問題提起とか見通しを立てて、それを実験とか観察をして、その結果をまとめたり整理したりして、単元を勉強していくというような構成になっていると思います。子供たちに理科に興味を持ってもらって、いろんな疑問をどんどん深めていただきたいと思えますので、質問の仕方とか問題提起にいろいろ工夫がなされている、あるいは、写真とか図やいろんなイラストを適当に配置して、子供が分かりやすく理解できるようにしてもらいたい。それから、墨田区の場合は、理科離れというか、余り得意でないお子さんもいらっしゃるようなので、比較的平易に説明しているというような観点を、どの教科書がいいかを選ぶポイントにしたいと思っています。

幾つかそれぞれ特色がありまして、いずれも問題解決型の、分析の学習を進めているんですが、私が学校図書を選んだのは、写真とかイラストが比較的多くて、きれいな写真や図が載っていることに加えて、教科書のスタイルとして、先ほどの日本文教出版の算数のように、本の片側に薄いブルーの帯があって、そこにいろいろヒントとかコメント、あるいはアドバイスのようなことが書いてあって、これが非常に分かりやすいこと。それから、いろんな問題提起とか案内をするときに、教育出版でしたか、鉄腕アトムのキャラクターを使って説明をしているんですが、学習図書の場合は学年によって牧野富太郎とかキュリー夫人など科学者のキャラクターを使っているので、この辺が私としては雰囲気理科らしいという印象を持ちました。

あとは、東京書籍も教育出版も、問題と実験や観察、それからまとめというスタイルで、使いやすいいかなと思います。どちらもほぼ似ているんですが、教育出版のほうが、例えば人体の、これは6年の理科の42ページ以降に人間の体のいろんな臓器を説明するのに、子供たちと同じような体のサイズの、解剖図みたいなものが載っていて、イメージが湧きやすいような工夫がされているなど、なかなかおもしろいなと思いました。

そのほか、いろんな星の写真とか、災害なんかも大きな写真が載って理解しやすいので、学校図書

かもしくは教育出版を推薦したいと思っています。

横井委員長 雁部委員、いかがですか。

雁部委員 理科については、私は、東京書籍、あるいは教育出版がいいかなと思いました。

東京書籍、ほかの本もそうなんですが、随所に、やってはいけないことが明記されて、危険というマークがついて、大変見やすいと思います。

東京書籍5年生の115ページからですね、人の誕生というところ。子供が産まれる様子で、これに関連して巻末に、子供の実際の、平均なんでしょうけれども、38週の模様が実物大として載っているんで、子供たちは、これ、産まれてくる子はこれぐらいの大きさなのかなというのが把握できて、とてもいいのかなと思います。

もう一つは東京書籍6年生の42ページ、こちらも人の体のつくりというのがあるんですね。先ほどのほとんど実物大とは違いますけれども、ここに名前書き込むようになって、書き込んで覚えると。これもいいかなと思いました。

大日本図書。大日本図書はかなり、これも分かりやすく出ているんですが、一番気に入ったのが、大日本図書5年生の139ページ、薬品の扱い方と実験の注意と書いてありますけれども、やはりこういうことをやる場合の、特に薬品を扱うわけですから、窓をあけるとか、そういうことは説明してあるのいいと思います。

学校図書。学校図書は、3年生の教科書は割と遊びから学ぶという感じの配慮がしてあって、おもしろいと思いました。4年生以降はちょっと字が小さくて、細かくなっているのを見づらいかなと。学校図書5年生の103ページ、川の流れの変化。これは台風が来た後だと思うんですが、同じ場所で、この間もちょっと事件ありましたけれども、これだけ違ってしまうということを認識させるような写真がちゃんと載っているところがよいと思います。このまま107ページ、電流の働きというところで、実際にどういうふうに使われているのかと。現場の写真、これは多分鉄くず屋さんだとは思いますが、こういう写真が載って、こういうところで使われているというのを写真にして載せているところはいいと思いました。

教育出版なんですが、一番目立ったのが6年の48ページ。先ほどの人体の後、48ページ、フナの解剖が、今、小学校でなかなか解剖やっているところないんですけども、実際のフナを解剖した写真が載っているんですね。この辺は、気持ち悪いには気持ち悪いんですけども、我々の時代はみんなほとんど解剖していると思うんですが、実際にこういうものだというのを教えるという点では、これはグロテスクという意見はあっても、これはいいのかなと。

ただ、全般的に、3年、4年、5年、皆そうなんですが、実験の結果、詳しく載っているんですね。最終的に、実験した後になんかこうなるんだということで、大体こうなりますよということで結果が載っているというのは、どの教科書も一緒なんですけれども、ページめくっちゃうと結果が分かっちゃうような構成になっているんで、極論言うと、実験しなくても答えは出ているから、それでいいだろうということになってしまう可能性もあるので、ここはぜひ実験した後結論を見るという、先生方も配慮が必要になってくるので、その辺がどうかと。

啓林館については、理科、理科プラスというのがあって、問題集はあるので、その辺はいいとは思いますが、ただ、別冊で、教科書以外にその問題をちゃんと自分でやるかどうかを考えると、どうもその辺が、国語・算数とはちょっと違うので、家庭で勉強するかなと、ちょっとその辺が疑問残ったところですね。あと、6年、啓林館はやはり字が小さいのと、ちょっと情報量が多

過ぎて、多分こなし切れないのかなという懸念があります。

ということで、大体バランス的には東京書籍がいいのかな。2番目は教育出版ぐらいかなと。そういった感じです。

横井委員長 では、教育長どうぞ。

教育長 理科の目標を踏まえると、問題解決的な学習に取り組みやすく、資料や写真などから自然などさまざまな事象に対する理解を深めることができる教科書が望ましいかなと。そうした観点から比較したものです。

まず、東京書籍ですけれども、5年の20ページ、種子が発芽するためということで、問題提起というのはあるわけですが、その中で、子供たちの自主的な解決を促す中で、各単元で課題、問題、予想、実験、考えよう、そしてまとめという一連の問題解決の流れに沿った展開がされていて、非常に分かりやすい学習活動が展開できるのかなというように思います。ただ、単元によっては、実験考察ノートの例示が具体的に示されている。例えば5年の144ページですけれども、子供の考察だとか活動を促す上で、やや不適切な点がちょっと散見できるかなというように思います。

次、学校図書本ですけれども、例えば5年の92ページですけれども、ここは「流れる水のはたらき」単元なんですけれども、この中で、川の流れと土地の変化の項目では、どのようなときに流れる水は地面の様子を大きく変えるでしょうかという問題提起をして、自主的な考察を促すとか、実際に川の断面図を載せて、川の浸食や堆積の様子が理解しやすい資料提示と、具体例ですけれども、そういった点が、先ほど申し上げた点から見ても、よいかなと思います。ただ、字が比較的細かい点が若干難点かなと思います。それから、それぞれの学年の表紙に日本人を含む世界の偉大な科学者の写真が掲載されている点が、非常に印象深い点であります。

教育出版です。各課の冒頭で、各学年の学び方、学習の順序を示し、各単元では、例えば6年の16ページでは、はてなという問題提起をして、一連の学習の過程の中で予想や考察を促している。そして、結果に基づき表現させるような工夫がしてある点がよい点かなと思います。特徴的な点としては、雁部委員や阿部委員からありましたように、一つは解剖実験ができないので、フナの実物の解剖図を見せたり、人体と同じサイズで載せられているのが非常に特徴的な点かなと思います。

一番、私、いいなと思ったのは、やっぱり6年生の表紙が、スカイツリーが出ているので、なかなか捨てがたいなということで、学校図書と教育出版との比較で、私はこの表紙が決め手になって教育出版本を推したいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

私のほうから、理科についてお話、ちょっとさせていただきたいんですけど、分かりやすいところが、先ほど教育長さんのおっしゃった東京書籍の5年、20ページ、種子が発芽するためには何が必要なのだろうかというふうな問題があります。これに類する問題の提示は、他社では、水が必要だろうかというふうな導入の仕方をするというふうなことが、前にどこかで提示が、ご意見にあって、ちょっと討論したことがありました。何が必要なのだろうかという問い、漠然としております。これまで子供たちは、1年生のアサガオの、生活科におけるアサガオ以来、種子をまいたら必ず水をまくというふうなことをやっているわけなので、だから、もちろん最終的にはいろんな条件は引き出すわけですが、まず水について確認をしようというのが他社のいき方なんだろうと思うんですね。ですから、問題、いろいろ提示のしようがあるということでもあります。

坂根委員 例えば学校図書の5年の22ページに「インゲンマメの種子の発芽には水が必要でしょうか」となっています。

横井委員長 そうなんですね。それは、前のページに水をまくというふうなことが。これは、21ページの下の3人の子供の発言の中に、種まきのとき水やりをしたってというふうな話が出てくる。だから、そういう生活経験や理科での経験が前提になるから、漠然と何が必要かというふうないき方もあり得るけれども、その順番にしている。まず、これまでの経験から水やりが必要かというようなことがあって、いろいろな考え方ができるだろうなというふうに思いました。

それから、東京書籍の6年の、坂根委員のおっしゃった、発電機からじゃなくてモーターを回転させるというふうなことについて。

169ページですね。これは、本当は私がお答えするよりも指導室からお答えしていただいたほうがいいことなのかもしれませんが、私の手元に資料がありますので、それでいきますと、学習指導要領では、電気の利用というふうな内容があって、こういうふうな表現の仕方をしております。手回し発電機などを使い電気の利用の仕方を調べ、電気の性質や働きについての考えを持つことができるようにすると。ですから、他社はみんな初めから手回し発電機を使っているわけなんです。

じゃあ、この東京書籍の実験は一体何を意味しているのかということ、手回し発電機の中身はこうなっていますというふうなことを理解させる上で必要なことをやっている。ところが、5年生の理科でもモーターをつくることはできるんだけど、モーターつくらなきゃいけないというわけにはいかないわけなので、モーターが何かということは実はよく分かっていないかもしれないですね。だから、この実験、身近にモーターがあって、いろいろやっているお子さんたちにしてみると、ああ、モーターでも明かりがつくんだってなことは非常におもしろい実験なんだけれども、それと同じことを今度は手回し発電機でやるわけですから、実は同じことをやっていると言えないこともない。それがモーターかどうかということの違いだけで。

それで、他社がなぜ取り上げないかということ、端的に言えば、取り上げる必要がないからなんですね。だけど、それではおもしろくありませんから、じゃ、他社はどう扱っているかということ、教育出版では169ページに、同じことを資料として取り上げております。169ページ。他社も取り上げているか。今話題になっているところは書かれていますかね。学図は入れていないですかね。今ざっと見たところでは、モーターを回すという実験はやっていないと思うんだけど、これは必要はないということでもあります。もちろんやるのは、今の学習指導要領の考え方はオーバーしてやっても構わないことになっておりますから、いいんですけども。

なぜ今この話したかということ、理科が得意でない先生たちが今ふえていると思うんだけど、そうしたときに、できるだけ実験を精選したい、したほうがいいんじゃないかってことが考えられますよね。モーターがあって割り箸があれば簡単にできるんじゃないかとお思いかもしれませんが、そのための前の準備だとか、それから、子供たち、必ずしもうまく摩擦を使って、軸を回すわけですから大変で、それ、どういうふうなのが最適かを先生方が考えてやって、その後、整理して、実はこれと同じことを、使い勝手よくしたものがこれですよというふうに手回し発電機で出てくるということになりますけれども。そういうようなことを考えると、こういう順序でやるのが理科の得意でない先生たちにとって適当かどうかということは、何か考えなければいけない。私は逆に、これは違うんじゃないかなというふうに思ったところでもあります。

今度、その単元でいうと、実は皆さんも多分、手回し発電機は今いろんなところについているから

身近になってきましたけれども、コンデンサーは余り身近じゃないと思うんですよね。コンデンサーを使うようなことが昔はありませんでしたから。だから、恐らく先生方の、若い先生たちの多くは、理科が得意でなければコンデンサーなんて見たことがないから、そういう意味では、コンデンサーに電気をためられるという実験をする上では、コンデンサーをきちっと扱う必要があるんだけど、そういう点で見ると、コンデンサーって小さいパーツですけども、写真でも余りはっきり捉えられてなくて、その点では、教育出版の165ページ、163ページから165ページにコンデンサーについて大きく載っているから、これがどういうことかと。うんと小さいので、他社のだと何かよく分からないところがあるかもしれないので、そういう点では逆に、教育出版のコンデンサーの扱い方というのが、不得意な先生たち、これまで接したことない先生たちにとってはいいのかなというようなことがあった。そうすると、そういうことで私は教育出版がいいんじゃないかというふうに、そのことだけではありませんけれども、思います。

先ほどから皆さんおっしゃっているように、理科は全体として問題解決をするわけで、問題を見つける、調べる、考察するというふうな流れになって、また、もっと細かくすれば、予想するとか、計画を立てるとか、実験の結果を整理するとかというようなことになりましてけれども、これはどの社も同じようにみんな展開していると思いますね。ウエイトのかけ方が多分会社によって違うんだろうと思うんですけども。

そういう意味では、まず分かりやすいように問題を提示して、実験をしてもらって、まとめようというふうな、そちらがメインになる理科、科学的というか、流れがあって、もう一つは、その問題を見つけ出す、身近に問題があるということを見つけ出すというふうなことを重視しようという流れもあると思うんだけど、特に今、学校教育全体の狙いは「生きる力を育てる」だけども、生きる力で一番重要なことは、これまでなかった問題を解決するということだと思うんですよね。だから、そうしたときに、与えられた問題を与えられた手順で実験すればいいということじゃなくて、身近な問題を見つけ出して、実際には子供が見つげ出すことです。大人には分かっていることだけど、でも、子供にしてみれば、身近な問題から自分で計画を立てて実験していくというふうな、少しでもそういう方向に近づけていきたいというのが、問題の前に、単元の前に、すぐに問題に当たるものがなくて、何ページも何かいろんなことをやっている意味だと思うので。そういう意味では、問題を見つける、もうそういう導入段階を大切にしているのが教育出版ではないかなというふうに思います。

それから、これも教科書展示会を見た方たちの発言の中に、月の動きを見るという話が載っておりまして、例えば学校図書でいうと4年の72ページですね。それから、東京書籍は4年の72ページ、73ページ。大日本図書が4年の90ページで、それで教育出版が4年の83ページ。それから啓林館が4年の63ページです。

これは、月の動きについて調べるという単元なんだけれども、子供たちは、特に東京の子供たちは、夜の空が明るくなって、なかなか空を見る機会がありませんから、意識して見ないと、見ても気がつかないものだと思うんです。昼間、半月だとか三日月だとかは昼間見えるから昼間も観察しますけれども、昼間見える月の動きはわずかだから、全体見るためには、夕方出て夜中に真上に来る満月のころを見ればいいわけですけども、その後はもう寝てしまいますから見られなくなります。

全体の月の動きを見るという意味では、こういう写真があるといいわけですが、展示会にて、これが全天があっという間というのが大日本図書なんですけれども、これは満月が東から出て西に沈む写真です。他社は、例えばこれは東京書籍ですけども、満月が東から出て真夜中に真南に来るという

ところまでが載っております。ですから、こういうふうなときに、全部載せないというのも一つの見識ですね。この後どうなるのかは実際に調べてみましょうとかいうふうなことですからいいんだけど、必ずしも夜中過ぎまで見られないとしたら、実はこう動いているんですよというふうな、こういう全周が載っているのがいい。これとこれ比べてみると、こちらは晴れているから月がくっきり写っているけれども、こっちはおぼろ月夜で見やすくなっておりませんが、こちらは見える時刻を書いてあるんですね。こちらは時刻書いてある。だから、そういう意味では、この教育出版の月の動きがいかなのというのは、こういう感じです。

というふうなことで、いろいろほかにも、あと、どこももちろん、器具の安全の活用については配慮されてはおりますけれども、例えば加熱器具であるアルコールランプやガスコンロの扱い方がどこに載っているかですね。その単元に載っているか、巻末に載っているか、事前に指導するか。その件について目次に載っているかどうかというふうなことなんかいろいろ含めて考えてみますと、加熱器具の安全な扱い方については、これは教育出版なんだけど、本文の中にもしかるべきことを書いてありますが、裏表紙にも関連することが書かれているんですね。ですから、そういう意味で、私は教育出版を推薦したいというふうに思っております。

かなりそれぞれご意見おありと思うけれども、いかがですかね。

何かつけ足しでご意見があれば。

阿部委員 個人的には、先ほど申し上げたように、いかにも理科の勉強をする雰囲気という点で学校図書はすぐれていて、有名な科学者のキャラクターを使うということで、その科学者の活躍も紹介しているのは非常に興味が湧くのではないかと。もう1点、巻末に資料集で、例えば6年生だと一番後ろの197ページに、実験の器具の使い方とか、顕微鏡の使い方とか、天秤とか、いろんなところを要約してまとめているのが非常に便利かなと。個人的には学校図書に興味を持っていますが、全体として、教えるという観点からすると、一番バランスがとれているのは教育出版かなと思います。

坂根委員 さっきおっしゃったものですが、この教育出版の4年に、アルコールランプの使い方というのが割合と詳しく書いてある。これは理科室でのことですね。また、これではないですが、その都度、使うところに説明があるという意味では、結構いいと思います。

ただ、1点、教育出版の3年の114ページ、115ページ、「影と太陽」というところに、「はてな」という疑問があって、「問題、観察、調べよう。影はどのような向きにできるのだろうか」と校庭で調べるのですね。観察で、影の向きと太陽の向きを調べ、調べた結果があります。そこまでのいいのですが、たまたまだと思いますが、この同じページの最後にアトムがいて「分かった」と書いてあるのです。流れとして同じページで「何か見て、はてな、調べよう、分かった」となっています。

横井委員長 このページはちょっとまずいですね。

坂根委員 はい、そうですね。

横井委員長 この部分は確かに、余り望ましくないなってことは言えますね。

雁部委員 先ほどの算数もそうなんですけれども、結局、先生のための本か、子供のための本かっていう微妙なところがあって。今、墨田区は若い先生が多いので、やっぱり先生の指導力で、かなり子供たちに及ぼす影響というか、差がつきやすいので、この辺は教科書の問題じゃなくなるんですけども、その辺も考慮した講習をやったりとか、先生を育てるということを同時にやっていかないと。

教科書については、私は東京書籍薦めたいんですが、教育出版でも大丈夫だとは思いますが、その辺の教師力を上げるという別の問題も並行して進めていかないと。恐らく教科書がいい悪い

とか、そういう問題じゃ墨田区の場合はないので、その辺を並行して進めるという条件で。どれも文科省の検定を通過しているんで問題はないですが、墨田区の子供たちに合っているかどうかということを考えれば、教科書を利用して学力向上していくという考え方でいかないと、学力は上がっていかないとします。

坂根委員 そうですね。実験がどのくらいできるかっていうのは、その先生の力量にもあるので、無理に別にモーターの軸を回す必要がないことでしたら、ほかの実験を充実するような形で進めればよいでしょう。今までと同じ教科書ということには賛成します。

横井委員長 やっぱり、理科の学力が必ずしも十分に上がらないというのが、教科書の問題なのかね。じゃ、教科書を変えればどうかなってというようなこともありますよね。

坂根委員 難しいですね。

横井委員長 今日の朝刊のニュースにも、子供がだんだん理科をやらなくなるというふうなデータが、4カ国の比較ですが、日本が最低ですよ。

だから、実験をやれって言われればやって、結果を出しなさいと言えれば出してやるけれども、それ自体に興味持てるかどうかというふうなことが本当は大事なことなんだろうと思うんですよ。先生方がやっぱり引いてしまっていたのでは、子供だっておもしろくないので。だから、先生方も飛びつけるような何か。

これまでの蓄積もあるということで、理科は教育出版で継続していただく、研究を深めていただく。

阿部委員 そうですね、東京書籍と比べて、どちらも遜色ないので、どちらを選んでもよろしいと思うのですが、今使っているのが教育出版であれば、使いなれているということとから、教育出版がよろしいんじゃないでしょうか。

横井委員長 よろしいですか。

それでは、学力を上げるのは教科書か先生の技量か、いろいろ考えるところがありますので、ぜひまた教育長さん、学力向上のために、よりよい方法を考えていただくようにしていただいて。

それでは、理科については教育出版を採択することとしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、教育出版株式会社を採択することに決定いたします。

それでは、引き続きまして「生活」について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いいたします。

指導室長 生活科の教科の目標は、具体的な活動や実験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うこととさせていただきます。すべての内容において、具体的な学習活動や学習対象を示すとともに、関心をもつこと、気付くこと、分かること、考えることなどを明確にしたこと。言葉などを中心としたコミュニケーション活動を通して、体験したことを他者と情報交換することを目指した「生活や出来事の交流」の位置付け。自然の不思議さや面白さを実感する学習活動の取り入れ。安全教育や生命に関する教育の充実。幼児教育他教科との接続。などが、改善の内容とさせていただきます。

本区の児童において、活動内容及びねらいが明確に示され、生活上必要な習慣や技能が確実に身に付くような教科書が望まれます。また、人々や社会や自然とのかかわり、気付きを促すこと、

特に身近な人々とのかかわりが重視され、全体的な内容のバランスがとれているもの、都市の限られた自然環境の中にある学校においても効果的に使用できる教科書が望ましいと考えます。

生活の現在使用している教科書は、「株式会社振興出版社啓林館」でございます。

全7者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

では、教育長どうぞ。

教育長 それぞれの本についての概括的に特徴点を、説明をさせていただきたいと思います。

まず、東京書籍本ですけれども、学習のポイントとなる点をキャラクターを使って説明させているので、親しみやすく分かりやすい点がよいかと思います。また、巻末に便利手帳が組み込まれて、具体的に学び方等が示されていることから、学習の見通しを持って取り組むことができる点がよいと思います。

次に、大日本図書本ですけれども、上巻は仲よしをテーマに、春夏秋冬の季節に分けた単元、下巻では発見をテーマに、「春はっけん」「生きものはっけん」「わたしの町はっけん」「はっけんくふう おもちゃ作り」「自分はっけん」の5単元が設定されて、子供たちが興味・関心を持てるような工夫がされている点がよいと思います。

次に、学校図書本ですけれども、上下巻とも目次の単元で学ぶ内容が、例えば私のアサガオ、これは上巻ですけれども、下巻では私たちの野菜畑など、分かりやすく示され、どのような活動をさせ、何を考えさせたいのかが明確な点がよいと思います。また、巻末に学び方図鑑、安全のページや「きみならどうする」のコーナーがあり、学習のまとめには効果的だという点がよいと思います。

次に、教育出版本ですけれども、目次において月別で単元が示され、年間の学習の流れが分かりやすく、また、単元名も、夏と友達になろうや、目指せ野菜づくり名人など、子供たちに分かりやすく親しみが持てるような工夫がされている点がよいと思います。上下巻末に、文具ポケットと生活科ノートのコーナーがあり、まとめの学習としても活用できる点がよいと思います。

光村図書本ですけれども、全般的に写真や絵の扱いが大きく文字が少ないが、必要な情報は得やすい点が特徴であります。また、各単元のポイントで、例えば、学校生活の中でどうすれば楽しい会になるかな、などと問いかけて、思考力、判断力を育成しようとしている点もよいと思います。

啓林館本では、目次の単元名や各ページの小単元で、どのような活動をするのかや、どのようなことを考えさせたいのかが明確となっております。また、見開きページなどに効果的に写真が使われている点も特徴的な点です。上巻末の「いきいきずかん」、下巻末の「わくわくずかん」で、それぞれ学習のまとめとして活用できるコーナーがあり、これもよい点だと思います。なお、付録に「せいかつたんけんブック」という、こういうブックありますけれども、子供たちが活動する上で使いやすく、学校外学習でも使えるのが効果的なことかなというように思います。

最後に、日本文教出版本では、目次に凹凸があるのが特徴的で、小単元のタイトルでは、目次に示されている各単元のイメージをあらわすマークがついていて、分かりやすく導きやすいかなと思います。また、文字が比較的少なく、イラスト等で視覚的に訴えかける内容が多いのも特徴的な点であると思います。

それぞれ特徴があって、なかなか甲乙つけがたいのですけれども、啓林館の「たんけんブック」が非常に魅力的なんで、これが私は1番で、2番目が学校図書本ということで、どっちかだなという感じで、なかなか決めがたいのですが、どちらかというとならば啓林館のほうがよいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

では、坂根委員どうぞ。

坂根委員 私は学校図書の生活を推薦します。なぜかという「学校生活の自覚をさせる」という点でこの本が一番よくできている。それから「子供の視線で生活を追っている」という点で、一番いいのではないかと思います。

最初のページ、皆さんざっと見てくださると比較できます。例えば大日本図書は「小学校生活のスタートだ、友達たくさんつくろう」。啓林館、「1年生になって」。これ、イラストですね。「元気に学校へ行けるかな、学校と友達になって」。光村図書は「今日から1年生、好きな動物は何、好きな遊びは」。教育出版は「今日から1年生、前はどうだったかな」などです。東京書籍は「1年生、自分できるよ」学校の様子があって「仲よしになりたいな」。それから文教出版「楽しいこといっぱい、1年生になったら」とあります。

学校図書は、目次の次に「1年生になったよ」というのがありまして、そこを開くと見開きの一番最初に「わくわくどきどき1年生、1日の始まりだよ」「おはよう、朝御飯しっかり食べるよ」と。墨田の教育の基本「早寝早起き朝ごはん」の、まさにこれを書いてあります。学校に行くのが、これ全部子供の写真です。他者と違いまして、学校の授業科目と行動が全部書いてあります。上履きに履きかえて、1時間目国語、2時間目体育、3時間目生活、4時間目算数、バランスよくやっています。給食を食べて、お休み時間、掃除、保健室、放課後、学童もあります。うちへ帰って、今日の出来事を家族に話します。最後は明日の準備をするという形になっています。1年生となって、もう保育園や幼稚園でなく、勉強をするという自覚がここにあらわれているかなと思います。

次のページ8ページには安全のページ。安全がかなり早く出てきています。

もちろんその後「友達いっぱい遊ぼう」もあるんですが、14ページで、これも見開きで学校探検があります。余り字が多く書いていないのがとても分かりやすいということと、16ページ、17ページには実際の学校探検で、これは子供が学校の扉をあけるといって感じで、「どきどきわくわく」。そして「ルールを守ろう」というようなことが大人のほうから言う形でなく、子供の視線で子供の言葉で書いてあります。このページの下に2点だけ「静かに歩こうね」「挨拶はできるかな」。そして学校探検する。そうすると、次の22ページに校長先生に会うのですが、23ページに「失礼します」「こんにちは」と言って入り「いろいろお話を聞かせてください」。22ページ。そして、23ページで、終わったら「ありがとうございます」と、きちっと挨拶ができる。これが生活科の基本になっていると思います。

あと、同じ1年生ですが、「私のアサガオ」というのが28、29ページにあるのです。アサガオをつくる。1年生はどここの教科書でもアサガオをつくります。例えばほかの社の場合は、「花や野菜を育てよう」。「きれいに咲いてね」「1粒の種から」などです。ここで学校図書のように「アサガオ」という名前をはっきり出していることが、子供にはとてもいいと思います。別の例を言いますと、漢字でいうと、「虫」という字と「蟻」という字の、どちらが難しいでしょうか。大人は「蟻」のほうが難しいと思いますが、小さい子供は「蟻」という漢字はすぐ覚えても、「虫」という漢字は分からないのです。個別の蟻は識別できても虫という概念が分かりませんから。だから、「花」ではなくて「アサガオ」と書くということが、子供にとって一番分かりやすい。そして、「私のアサガオ」ということで、自分のアサガオを大事にしようと言う気持ちが生まれるのではないのでしょうか。

また最後のほうの生活図鑑。116ページに、生活科学び方図鑑に「勉強する力をつけるために、話す、聞く、見る、育てる、遊ぶ、上手な話し方の秘密、聞き方の秘密」、こういう形で「生活」が出ています。これが2年になりますと、学校図書の2年生の最後ですね。この112ページ、ここにも「話す、聞く、見る」とありますが、ここには「聞く、上手な話し方」も。116ページの下にある「見る」のところは、「見るから探す、調べる」へ。1年は「見る」だけでしたが、2年になり「見るから探す、調べる」というふうに発展しているのが勤める点です。この辺で主なところは申し上げました。

横井委員長 ありがとうございます。

では、雁部委員どうぞ。

雁部委員 私は、生活については三つに絞って、啓林館、東京書籍、学校図書の三つに絞りました。

まず啓林館は、先ほど教育長がおっしゃっていたとおりであります。

啓林館の上、15ページ、ここも今、坂根委員から説明ありましたけれども、まず、学校に入って何を教えるかということで、やっぱり決まり、決まり事、約束、ルールを教えるということで。こういう、危ないとか、やめてねとか、ほかにも随所にあるんですが、こういうことをちゃんと教えているのが良いです。啓林館だけじゃないんですが、日本文教出版、東京書籍、学校図書も同様ですね。載っていて、そこがいいかなと。

啓林館の一番いいところは、同じ上の70ページ、広がれ笑顔という項目があるんですが、ここは家族あるいは地域の人たちとのつながり。ここは家族中心なんですけど、家族といっても、お父さん、お母さんいてとかというのが望ましいんですけども、この72ページへいくと、お母さんと娘さん、お父さんと息子さんと別々に写真が載っていて、いろいろ事情ある家庭にも配慮しているのかなということと、やっぱりこの笑顔。啓林館全体見ると、イラストもそうなんですが、子供の写真もそうです、笑顔が多いし、イラストも笑顔のイラストが物すごく多くて、やっぱり見ていると楽しくなるような本だと思います。

それから、啓林館の下で、これは全般的に随所にカード。カードの作り方が一緒に載っているんで、例えば9ページ、どんな野菜を育てようかなというところ、啓林館の下です。9ページ右上にカード、絵日記のような、これは11ページもそうですが、17ページもそうです。こうやって自分が感じたことをノートに記すという基本的なことを、自然に勉強で覚えていけるというような作りになっているのがいいのと、先ほど教育長がおっしゃった「たんけんブック」ですね。これは、ちょっと友達と公園へ遊びに行こうとか、そういうときにも図鑑として利用できますので、しかも、穴があいていて首からひもで、首から下げられるようになっていますので、これは物すごく有効かなと。

東京書籍は、やはりルールを教えるということを明確にしております。新しい生活シート、あるいは学校探検から入るということで、これも学校図書と同じなんですけど、興味を持って学校になれてもらうという意味ではいいかと。あと、下に至っては写真と、上もそうなんですが、写真とイラストは効果的に使われていて、飽きないと思います。

学校図書は、先ほど坂根委員さんが説明したところがほとんどですが、やはり紙質がよくて、画質もよくてきれい。それから、家族の写真がやっぱり入っているんですね。ここもいいかなと思いました。

大日本図書に至っては、途中にクリアシートがおまけでついているんですが、これは余り意味ないだろうなというのが感じたところです。

教育出版も、上の87ページで家族。それから、下に至っては、遊びの絵本かなという印象がちょっと拭えないのです。上の45ページ、46ページの、種の気持ちになろうというところに、下敷きを動かして変わるやつがあるんですが、これ、要るのかっていう、感じましたね。遊びという意味で入れているのでしょうけれども、生活というのは、遊びは遊びなんです、まず、そこから一つのルールを学ぶということで、そういうところをきちっと提言しているのが啓林館と学校図書。

光村図書に関しては、ちょっと何を訴えているのかよく分からない。写真とかイラストが多いだけで、これ多分、先生のほうが戸惑ってしまうんじゃないかと。

日本文教出版は、やはりルール、約束事をちゃんと書いてあります。遊びの中から、見て分からないことは聞くという習慣づけをするような、聞くあるいは調べるといった習慣づけをするようなつくりになっているかなと。

総合的に見て、私はちょっと決めかねていますが、啓林館、東京書籍、学校図書、いずれでもいいかなとは思いますが、一番は啓林館でいきたいなと思います。対抗で学校図書、東京書籍。

阿部委員 私も学校図書がいいと思います。

実は、坂根委員のご意見聞くまでは啓林館を薦めるつもりだったんです。啓林館のいいところは、サイズが比較的小ぶりで軽いのと、イラストの絵が非常にやわらかい、ソフトな感じで子供さんになじみやすいのかなということ、それから、上のほうで一番最初に安全について触れているので、この辺の導入が大事なことなので、よろしいかなと。おまけの「たんけんブック」が結構子供たちに人気があるのかなということで、これをお薦めするつもりでしたが、先ほどのお話聞いて、学校図書のほうも、なるほど学校に上がってから、子供のしつけというか、いろんな挨拶とかルールを学ぶのを自然な形でうまくリードしているなということに気づきました。

それから、先ほどの私のアサガオ、28ページですね。確かに、これも単に種を植えて芽が出るというんじゃなくて、自分がまいた種がどう育って行って、最後には花が咲いて種になると、こういう、ずっと育てて最後に種ができるということで、自分が観察しながら、なおかつアサガオをずっと大事に育てていくということから、生き物の大切さみたいなことを、理科と同時に社会的な意味合いを学べるということで、大変いい。単に種をまいて植物を育てるといような感覚ではなくて、両面の意味合いがあって、非常に望ましいのかなと。そういう非常によく考えられた本なのかなということに思い至りまして、学校図書をぜひ使ってみたらどうかと思いました。

横井委員長 私も、これまでの話を伺った中で、学校図書がいいかなというふうに思いました。

坂根委員さんがおっしゃるように、墨田区の子供たちにぜひ身につけてもらいたい「早寝早起き朝ごはん」ですね。それから、学校の中でのルールについても。

一つ見ていただきたいのは、啓林館上の8ページ、9ページと、それから学校図書の8ページ、9ページですが、安全、登下校の安全についての話なんだけれども、啓林館は危ないことを「あぶない、やめてね」って書いてあって、これは評価の分かれるところだと思うんですね。注意を強く喚起するために「あぶない、やめてね」という書き方もあるだろうということですから、これはこれでもちろんいいんだけど、同じことを学校図書の場合はマルバツで書いてあるんですね。安全、やめたほうがいいことをバツというふうに。だから、規制をする、外からの規制、やっちゃいけないことなんだよということを強く規制するという考え方もあるし、自分からこういうふうに気をつけようというふうな考え方もあるから、これはどちらももちろんありだけど、これは使う先生やご家庭の指導力も関係してくるかもしれないなと思いました。

それから、学校内でのいろいろなマナーみたいなものは、どの教科書だってもちろん書いてはあるんですけども、学校図書が比較的整理されて分かりやすく取り上げられているように思いました。

それから一つ、これもやはり視点の違いがあるのが、学校図書は28ページ、私のアサガオですね。同じ啓林館も28ページで、アサガオを育てるわけですが、1粒の種からになって、タイトルから考えると、1粒の種からは客観、アサガオを客観視しているわけですね。こちらは、私のアサガオですから、アサガオを自分のものとして見ているという意味で、こちらの発想は低学年理科的な発想だと思えますね。生活科はもちろん低学年理科的な要素はありますけれども、やはりもっと生命を、生き物に接するというふうなことを大切にするという意味では、大事なのかなと。自分のものを育て、アサガオと自分が一体となって、生き物に接していくというふうな考え方という意味では、こちらの、生命を大切にするという意味で大切なんじゃないかと思えますので。こっちは1粒の種を客観的に観察していこうというふうないき方でいく。もちろんそうでない、それぞれがみんな自分の花を咲かせるわけですから、どちらでいっても同じようにはできるわけですけども、私は違うような。

というふうなことで、私は学校図書でいいと思います。

全体としては、学校図書ですかね。よろしいですか、学校図書。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、生活の教科書は学校図書を採択することにいたします。

長時間にわたりましたので、一時休憩ということで10分間。この時計で45分から開始したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(休憩)

横井委員長 それでは、ただいまより再開をいたします。

「音楽」について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いいたします。

指導室長 音楽の教科の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うこととございます。

音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聞いたりする力の育成、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことが重視されております。

「音楽都市すみだ」の将来を担う子供たちに、音楽に対する興味・関心をもち、基礎的な表現力を伸ばし、音楽の楽しさ、美しさを感じ取って聴き、様々な音楽に親しむ態度を育てることが重要であります。

以上のことから、基礎的な表現・技能を育てやすいこと、説明が明確で子供自身にとって理解しやすいことや本区で行っている「オーケストラ鑑賞教室」への興味・関心を導きやすい内容の教科書が望ましいと考えます。

現在使用している教科書は、「株式会社教育芸術社」でございます。

全2者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、阿部委員どうぞ。

阿部委員 私は教育出版社の教科書をお薦めしたいと思います。

それぞれ遜色のない内容だと思いますけれども、特色を私なりに申し上げますと、教育芸術社のほうは、扱っている音楽が比較的日本の懐かしい唱歌のような歌を豊富に採用しているのに比べますと、教育出版社のほうは、かなり新しいとか、外国の歌とか最新の歌を意欲的に取り入れている傾向が

あると思います。

それで、本の体裁ですが、教育芸術社は私どもが昔使っていた教科書にむしろ近いようなオーソドックスな形だと思います。教育出版社のほうは、歌の勉強の前に歌のイメージをおそらくつかませようということだと思いますけれども、学年でいろいろ歌の情景をイメージさせるような大きな見開きの写真が載っています。例えば、3年生の40ページを見ると、富士山の写真が大きく載っていて、そこに歌の歌詞だけが載っている。それを閉じて次のページをめくると初めて曲が出てくる。こういう形で、子供たちに歌を歌う前に情景のイメージをつかませるような工夫があるのかなと思います。

それから、そのほかにも結構いろんなイメージを湧かせる写真が多く載っていて、例えば、教育出版の5年生の19ページに、コンサートホールが見開きになっていて、トリフォニーではないんですけど、東京文化会館の写真が載って、開くとオーケストラの演奏している写真が見開きでぱっと出て来る。本区の場合はトリフォニーで子供たちがオーケストラを鑑賞する機会がありますが、こういうように本のイメージをつかんで実際にオーケストラの音楽を鑑賞すると非常に興味が湧くのではないかということで、工夫してあるなという印象を持ちました。

それに、音楽がいろいろ、現代版の音楽とか、たしかジャズのようなものを取り入れて、非常に意欲的な取り組みをしているなという印象を持ちました。逆に言うと、少し難しいといひましようか、時代をかなり読んだ新しい取り組みをしているので、少し難しい点があるかなという点はちょっと懸念材料ではあります。

あと、私がいいなと思ったのは、各学年で「君が代」を取り上げているんですが、これは教育芸術社も同じですが、「君が代」の歌詞と、歌詞の意味を詳しく載せているのが教育出版です。ちょっと5年生の72ページを見ると、国歌「君が代」と、さざれ石の写真があって、歌の大まかな意味を説明しているということで、非常に国歌を大事に扱っていると。この点、教育芸術社も、各学年の末尾の裏表紙の中に「君が代」は必ず載っていますので、「君が代」を大切に扱う点では同じなんですが、歌詞の意味なんかをより詳しく述べている点は、教育出版社のほう望ましいかなという印象を受けました。

これらを総合して、若干新しさを追求するならば教育出版だろうということで、こちらを推薦したいと思います。

横井委員長 ありがとうございます。

何かご意見があれば。坂根委員どうぞ。

坂根委員 両方ともすばらしい教科書で、ほかの教科の教科書もすばらしいのですが、世界一すばらしい教科書だと思います。

教育出版社のほうは、6年生でガーシュインの「ラブソディ・イン・ブルー」で、ジャズとクラシックの出会いを取り上げ、しかも、そのバックに演奏しているのは井上道義と、小曾根真という、今第一人者の音楽家が演奏している写真というのがすばらしいですね。ここでは、スウィングという、ジャズのスウィングということとを6年生から教わるというのは、何かもううらやましいというか、もう感激してしまいます。表紙の裏は辻井伸行、それから5年生は五嶋みどりなどの写真があります。

教育芸術社のほうも、4年生で「魔笛」のパパゲーノとパパゲーナ、二重奏、こういうような、もうクラシックの伝統でありながら、その深いところまで教えています。

結論から言ひまして、私は教育芸術社を推したいと思います。

教育出版社も素晴らしく、大変新しい分野もあるのですけれども、少し難しい部分もある点が難で

す。

日本の歌曲について説明します。これはすべて学習指導要領にあるもので、全部、両社ともに学年ごとに入っています。その中で「夏は来ぬ」というのを教育芸術社で見て下さい。6年の48ページですね。その上に意味が書いてあります。作詞は、佐佐木信綱という日本を代表する歌人で、「夏が来ぬ」という文語体で「来た」という意味だと書いてあります。こういう点が良いと思います。

それから、ここの36ページ、歌詞に、楽譜はないですが、「花」があります。墨田区の教科書ですから、やはりこの「花」の意味をきちっと知るといふ機会が必要ですね。例えば2番の、これは「見ずやあけぼの」、これは「水」と「あけぼの」と思う大人が結構います。文語を理解していない、いい加減に覚えたからでしょうか。3番の「錦おりなす長堤に」は、「長い堤」のことですね。こういうこともきちんと字で見て理解するというのが、墨田区の住民にとっては大事だと思います。

「仰げば尊し」もここに意味が書いてありました、47ページですね。曲があります。そして、「仰げば尊し」の下に、分かりにくいこと言葉の説明が書いてあります。「はやいくとせ」。「わかれめ」って、「今こそわかれめ」というのは、これは「こそ」「め」という文語体の係り結びで「別れましょう」の形ですが、「わかれめ」というのを「縫い目」とか「切れ目」と同じ「分かれ目」だと思ってしまう大人が多いようです。やはりこういう歌曲はきちんと意味が分かっていて歌を歌う。「詩とは歌である」ということを示していると思います。教育出版に比べると地味ですが、こちらを推したいと思います。

横井委員長 雁部委員、いかがでしょう。

雁部委員 私は逆に教育出版を推したいと思います。

阿部委員さんもおっしゃったように、6年生の、阿部委員さんはさっき違う学年でしたけれども、やっぱりこの最初のこういう歌のところの情景を思い浮かべるといふ点では、大きくみんな見開きですけれども、載っていてイメージが湧きやすいといふのと、あと、新しいことに挑戦するということに関しては、教育出版のほうが挑戦しているなど。若干難しいという部分もありますけれども、その辺はどうですかね。先生の説明でうまくいけるのかなといふのはあります。

ただ、見開きに関しては、いいんですが、多過ぎるので、一々そこを開いて見るのもどうかなといふのと、一つ心配なのは、先ほど書写のときに言いましたけれども、音楽室で見る場合もそうなんです。音楽室は特に机がないので、見開いて、大きいと、ちょっと使いづらいかなといふのはありますね。机の上で開いた場合も、ほとんど机いっぱいになっちゃうので、その辺はどうかなと。一瞬見て、あとは閉じて使うというやり方だとは思いますが。

1年から3年は、ちょっとクリアファイル、クリアシートみたいなのがあって、これは遊び心なんだろうけれども、これは必要あるのか。さっきもほかの教科でありましたけれども。絵と、紙の質と絵はすごくいいので、ここまでサービスしなくてもいいんじゃないかなといふ気はしました。

それから、6年生ですね。6年生の46ページに音のスケッチでドローンで、ちょっと私、詳しくないんですが、聞いたことない言葉が載っているんですが、ただ、これも新しいことへの挑戦だろうなって。音楽やっている方にとっては普通のことなんだろうけれども。ただ、その下のほうにちゃんと意味が載っているんですね。なので、そこは問題ないかなと。その辺も5年生、6年生、専科の先生がいらっしゃるの、ここは使いようかなと。

やはり1年生の教科書から6年生の教科書までオールマイティで、2ページにわたって「君が代」を。それで、さざれ石の写真が載っていて、その意味もちゃんと書いてあるんで、ここはやはり、日

本国民であって、日本を好きになるということでは、「君が代」を大事にしているということは教育出版を推せるところだと思います。

あと、滝廉太郎さんの、先ほど「花」という歌がありましたけれども、これは同じ6年生の78ページ、こっちは「荒城の月」で載っていますが、ちょっと「花」じゃないのが残念かなというところですか。

教育芸術社のほうは、大変シンプルで、色の使い方もよくて、非常に見やすくできておりまして、これも全然問題ないと思います。

先ほど坂根委員さんが指摘しました、教育芸術社の6年の47ページの「仰げば尊し」があるんですが、ちょっと気に入らないのは、この上に縦に書かれてあるのが、「仰げば尊し」の詞かなと思ったら違うんですね。だから、この辺のバランスがちょっと。隣の46ページの歌詞なので。これ、例えば、こういうふうにも書いても、ちょっと色を変えるとかすればいいんだけど、このままだと、この歌詞の音符がここに載っているように見えてしまうところが、ちょっとどうかなと思います。

それから、教育芸術社は2年生の51ページで童歌があって、おばあさんと一緒に遊びながら歌うとか、こういう情景が載っている。写真が載っているというのがとてもいいと思います。

3年生の、教育芸術社3年生の18ページ、16ページからリコーダーについての説明は物すごく分かりやすく載っていて、ほとんどの小学校はリコーダー使うと思うので、ここはいいのかな。

教育芸術社は全般的に見やすく、色が優しくて見やすく、シンプルにできているという印象で、全く問題ないですけども、私はどちらかというと新しいほうが好きなので、教育出版のほうをお勧めしたいと思います。

もう一つだけ。教育出版のほうで、最初に、今活躍しているらしい現役の若手というのか、有名な方ですが、そういう方々の写真も載って、指導している写真とか、それもすごくいいなと思いました。なので、教育出版をお勧めしたいと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

では、教育長どうぞ。

教育長 どちらの教科書もいいと思うんですけども、教育出版のほうは、技能面で難度が高い曲や音楽が多い構成となっているというふうに思います。また、鑑賞曲はいろんなジャンルの楽曲が構成されていることから、幅広い音楽のよさが理解できると思います。「君が代」については、先ほど各委員からお話あったように、歌の意義だとか、さざれ石が写真つきで説明されているのが非常に印象的な点であります。

教育芸術社のほうですけども、こちらのほうは、技能面で扱いやすい平易な楽曲や音楽で多く構成されている点が特徴的かなと思います。そして、子供にとって歌いたくなるような楽曲が多いことから、興味を持たせて歌唱させることができるように思います。一番特徴的な点は、墨田区民の愛唱歌である滝廉太郎の「花」が、先ほど坂根委員から詳しくありましたけれども、これが掲載されていることから、私は教育芸術社のほうを推したいと思います。

横井委員長 ありがとうございます。

今、教育出版、教育芸術社、どちらもありませんけれどもというので、それぞれお二方ずついらっしゃるの、私は、本当にこれは難しい、迷いますけれども、皆さんおっしゃるように、「君が代」はきちっと書きたいですね。国歌としての扱いをするようなページの割り振りは、もう圧倒的に教育出

版がいいことは間違いありません。

ただ、これも出ておりますように、やや難しいんじゃないかという、内容がですね。というようなことと、それから、中身が難しいのと、それから題材の楽曲がポップス的というか、モダンというかですね。それはそれで目指す方向はいいんですけども、どうなのかなと思います。それから、一方では評判のいい見開き、3ページにわたる大きな写真なんだけれども、取り回しの悪さみたいなものもあると。音楽室に行くのに、いろいろリコーダー持って、何だか持って行って、開いてっていうふうなことになると思うんですね。それから、「花」の話もありましたけれども。

そういったことを考えると、トータルで見ると、教育芸術社が無難かなという気がするんだけど、いかがでしょうかね。

阿部委員 私、個人的には、「花」という滝廉太郎の曲、教育出版を仮に採用したとしても、ぜひ追加で勉強していただきたい。教育芸術社の6年の36ページには、鑑賞曲ということで、楽譜が入っているわけではないので、これでも足りないといいたいまいしょうか、ぜひメロディをつけて勉強してもらいたいと思います。どちらにしてもこれはやってほしいということで、そんなに大きな差ではないのかなと思います。

横井委員長 雁部委員さん、いかがですか。

雁部委員 難しいでしょう。

横井委員長 難しい。

阿部委員 どちらも遜色ないですからね。

横井委員長 それでは、時間もありますので、大方の意向は教育芸術社ということでご理解いただいてよろしいですかね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 そうということで、音楽は教育芸術社を採択することにいたします。

それでは、図画工作をよろしく願いいたします。

指導室長 図画工作の教科の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うこととございます。

採択にあたりましては、「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」ことが目標とされている教科の特性をかんがみ、児童の興味・関心を引く鑑賞教材の掲載や表現・造形的な活動の動機付けとなる構成等を考慮いただき、ご審議いただければと考えます。

図画工作の現在使用している教科書は、「開隆堂出版株式会社」でございます。全2者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

では、図画工作科について、雁部委員どうぞ。

雁部委員 図画工作については、開隆堂をお薦めしたいと思います。

まず、5・6年生の下。表紙なんですけれども、大体こちら、開隆堂さんはいろんな、わくわくするねとか、夢を広げてとか、何か期待できるような表紙になっております。日本文教出版さんは、これ、結構レベルの高い絵が載っているんですが、ちょっと全体的に暗いイメージがあるので、その辺がどうかということ。

開隆堂さんからいきます。

5・6年の下。まず、最初に開いたときに、2ページ、葛飾北斎の絵がどーんと載っていますね。これが、やはりインパクトが強いと思います。その5ページ、目次があるんですけども、ちょっと目次については余りよくないなど。目次の右側に、各目次のページごとに使う用具が書いてあるんですけども、ここで見ても、ちょっと現場じゃ分からないかなと。次のページ、6、7、これ、先ほど音楽のときも言いましたけれども、やはり実際に現役で活躍していらっしゃる方の写真と、その作品が載っているということで、やっぱりこういうのは子供たちに夢を持たせるということで、とてもよいと思います。

あと、3・4年生についてはポイントでアップ写真が載っている。3・4年の上からいきますか。できたらいいなという、これも開いていただくと、7ページ、吉田佳寿さんという美術作家が載っていて、この人の作品が載っていますね。こういうのを見ると、私もこうなりたいと思えば子供も頑張ると思うので、非常によいと思います。それと、ページを開いて、めくっていくと、子供の作品がたくさん載っております。ポイントごとに、ちょっと大き目に写真を載せてあるので、8ページは絵具の写真、ぼーんと載っていますね。16ページは粘土、19ページは、右側には、やはり一つの写真を大きく載せています。こういったところがいいかなと。それから、最低限の道具の使い方も載っていますので、全く問題ないし、よいと思います。

日文さんのほうは、5・6年生の下、先ほどの開隆堂さんは目次の横に使う道具書いてあったんですが、日本文教出版のほうは使う場所で道具の絵をページの下に描いてあって、このほうが分かりやすいだろうと。何を使うかって道具の絵が描いてありますが、ちょっと小さいので、ちょっと見づらかなと。

5・6年生の上、55ページ、接着剤の適合表というのがありますけれども、布に使う接着剤とか、ビニールに使う、あるいはプラスチックに使う接着剤の種類が分けて載っているので、これはいいかなと。

3・4年生の下、55ページ、6年から逆にいっていますが、のこぎりの使い方。これも例題の写真があるんですが、両刃ののこぎりと片刃ののこぎり両方あるので、ちょっとその辺が、イラストもそうですね、説明が分かりにくいかなという感じは受けました。

3・4年生の上に至っては、写真がちょっと細か過ぎて、もう少しシンプルにして、スペースをあけたほうがいいですかね。最初の6ページ、7ページ。ごめんなさい、最初の見開きの2ページ、3ページも道具いっぱい載っていて、これは、こういうのを使うんだよということで載っているんですけども、あと、6ページ、7ページも切り張り、ちょっと見た目、楽しそうなんですけど、細かいですよ。日文さんの特徴は、ちょっと細かい写真がたくさんあって、よく区別がつかないかなという感じは受けるので、その辺はもうちょっとシンプルにしたほうがいいのかと。

1・2年生の下も同じですね。まとまりがなくて、いっぱい写真が載っているだけみたいな、子供の描いたもの、イラストありの、何かちょっとごちゃごちゃ感が否めないで、その辺がどうかな。ただ、54ページのひもの結び方、描いてあるんですけども、これ、すごくいいなと思う。

1・2年生の上30ページ、31ページ、「みて みて おはなし」というところで、「おむすびころりん」を題材にした絵を描きなさいというあれなんだと思うんですけども、上と下と同じような絵が並んじゃっているんで、ちょっと区別しにくいので、この辺も配置の配慮が必要かなと。それと同じページ、30ページ、全部そうなんですけど、黒板のような譜面台に、ここは、30ページは、想像して楽しく描こうとか、好きな場面を選ぼうとか、いろいろコメントが書いてあるんですけども、

図画工作とかそういうものに関しては、先ほど目標の中にもありましたが、感性を働かせるということが大事なので、これは子供が見たまま、感じたまま、それでいいと思うので、一々上から、こうしろ、ああしろっていう指示は出す必要ないんじゃないかなと。これも先ほど言いましたけれども、先生のための教科書になるのかなという感想でございます。

以上です。全般的に開隆堂さんのほうが、1年生の題材と一緒に、わくわくするねという、何か楽しみだなという感じの教科書になっておりますので、開隆堂さんをお薦めしたいと思います。

横井委員長 では、ご意見ある方、どうぞ。阿部委員。

阿部委員 私も、全く雁部委員と同感で、開隆堂をお薦めしたいと思います。

先ほどお話に出ましたように、5・6年の下の見開きで北斎の富嶽三十六景が出ていて、うれしいことに墨田区蔵とあり、我が区にこういうすばらしい絵があるので、子供たちも北斎館ができるのを心待ちにするんじゃないかなということで、これは非常にいい点だなと思います。開隆堂は、いずれも見開きのところで、プロの非常に印象的な作品を紹介していて、やっぱり美術を鑑賞する、あるいは興味を持つということで、いろんな作家の作品を引用しているのは、すばらしい点だなと思います。

そのほか、日本文教出版は子供の作品をたくさん載せている点はいいんですけども、数が多くて未整理のような印象を受けるので、大胆な形でイメージを子供たちに持たせるのには、ちょっと写真が多過ぎるかなという印象を持ちました。

あと、道具などの使い方は、それぞれ詳しく説明していますが、開隆堂のほうが比較的イラストなどを使って分かりやすいのかなという印象を持ちました。

総体的に考えて、開隆堂がいいのではないかなという結論です。

横井委員長 坂根委員どうぞ。

坂根委員 私も開隆堂がいいと思います。

北斎のことは皆さんおっしゃったのですが、同じです。

それから、道具の使い方は、開隆堂の1年の上の一番後ろ、44ページから46ページ。かなり分かりやすく、大きく、はさみで、次は、1年の下がカッターですね。基本的に、はさみとカッターをこれだけ分かりやすく書いておくということは、いろいろありますけれども、ほかのところも、日本文教出版も同じですけども、最後のところでぱっと見て分かるということは、非常に使い方として良くできているのではないかと思います。

それから、鑑賞の部分ですが、先ほどの音楽と違いまして、今度は開隆堂のほうはかなり新しいものを選んでいきます。もちろん両方とも選び方はすばらしいですが、1年の上から子供の絵ではありません。エリック・カールですね。日本文教出版のほうはフジタ、フェルメール、ルノアール、風神雷神図もありました。それからゴッホ、スーラなど、名画です。開隆堂のほうは、カンディンスキー、モンドリアンからジョージア・オキーフなどの、一般に前衛に評価され、あまり知られていないような人の作品まで、きちんと出しているということが魅力的だと思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

教育長どうぞ。

教育長 日本文教出版のほうですけども、印象的なのが、巻頭を初めいろんなところで、子供たちが生き生きと楽しそうに作品づくりをしている写真が多いので、子供たちが身近で親しみやすく感じることができるかなという点と、あと、5・6年の下の本のほうで、図画工作の広がりという項目の

中で、具体的には48ページですけれども、中学校へ向かっての題材の中で中学生の作品が紹介されておりまして、中学校の美術につなげる配慮が示されていることが大きな点かなと思います。

一方、開隆堂本ですけれども、先ほど雁部委員のほうからお話ありましたように、巻頭でそれぞれプロの作品を掲載して、子供たちの創作意欲を刺激しているほか、下巻の冒頭で、小さな美術館の項目で、さまざまなジャンルの作品を掲載して、意欲を喚起するような内容となっているのが非常にいいと思います。とりわけ、今、墨田では葛飾北斎の啓発を小学校・中学校で進めている中で、やっぱり北斎の絵が取り上げられているのがよいということで、私も開隆堂を推したいと思います。

以上です。

横井委員長 私も、皆さんのご意見にありましたので繰り返しません、開隆堂がいいんじゃないかと思います。

図画工作は開隆堂出版株式会社を採択することでよろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 では、そのようにいたします。ありがとうございました。

それでは、家庭科、よろしくお願いいたします。

指導室長 家庭科の教科の目標は、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることをはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることでございます。

「家庭生活への関心を高める」から「家庭生活を大切にすることをはぐくみ」とし、家庭生活への関心を高めるとともに、衣食住などの生活の営みの大切さに気付くことの重視や「生活を工夫しようとする」から「生活をよりよくしようとする」とし、生活をよりよくしようとする能力と実践的な態度を重視しております。

家庭科の現在使用している教科書は「東京書籍株式会社」でございます。

全2者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。

それでは、坂根委員どうぞ。

坂根委員 私は開隆堂を推薦します。と申しますのは、学ぶ目的がはっきりして、内容も堅実に書かれているということがポイントです。

まず、対象が2冊しかありませんので、もう見開きで、最初のページを開いていただくと分かります。開隆堂は、家庭科の学習、2年間を通して何をするというのが簡潔に書かれています。毎日の生活をよりよく過ごすために必要なことを学ぶということですね、家族の一員として。ところが、それに対して東京書籍のほうは、最初の目次に「わが家にズームイン!」となっています。面白さでは東京書籍は良いのですが、最初に家庭科を学ぼうという姿勢が、開隆堂のほうのがはっきりしていると思うんです。東京書籍は「見つめよう、計画しよう、活動しよう」と意欲的ですが、何をするかと具体的にありません。開隆堂は、「子供の誕生、入学、そして支えられ、いろいろ、いろいろなことができ、5年生になった」こと。それから「今度できるようになる自分で学ぶこと」、今までの生活の過程とこれからの見通しがはっきりしています。その点を評価します。

それから、随所にありますが、安全に関することは、それはかなり開隆堂のほうに記述が多いと思います。はさみとか包丁はもちろん両方書いてあるんですが、ミシンの安全な使い方とか、アイロン

の安全な使い方とか、そういうことも書いてあります。

次に料理についてですが、開隆堂12ページ「ゆでてみよう」というのがあります。それから、東京書籍の16ページ「ゆでてみよう」とゆで卵から始まります。この辺は同じように書いてありますが、開隆堂のほうは安全マークが、12ページに「包丁の持ち方」、13ページの「ゆでる、やけどに注意」、もう一つ13ページ「まな板の取り扱い方」、これがはっきり書いてあるところが特徴だと思います。

また、家庭経営についての単元ですが、開隆堂では52ページ「じょうずに使おうお金と物」です。東京書籍は「めざそう買い物名人」で36ページ。これは家庭経営のことについての項目ですが、まず、この項目のタイトルが、開隆堂は「じょうずに使おうお金と物」というのは非常に分かりやすいですが、「めざそう買い物名人」というと、何かバーゲンでうまく買い物をするようなちょっと軽いイメージを与えます。内容はきちんと書いてありますが、「お金の使い方を見つめよう」。こういう書き方で、開隆堂のほうは少し真面目に書いてあります。

前に申し上げましたが、目次のところで、東京書籍のページの表紙の裏、「わが家にズームイン！」とか、2ページ「ミシンにトライ！」とか、少しテレビのタイトルのような表現が気になります。子供は好きかもしれませんが、もっと普通に書いてもいいかなと思います。ここが特徴です。

また後でつけ足すことがあるかもしれませんが、派手さはないけれど全体としてきちんと真面目に書いてある開隆堂を薦めたいということを申し上げます。

横井委員長 ありがとうございます。

家庭科について、時間も迫っておりますので、特に重要な点についてご意見のある方。

では、教育長どうぞ。

教育長 もう私は端的に1点だけです。今現在、墨田区で食物アレルギーについて、対策として重点的に取り組んでいるんですけども、東京書籍本では食物アレルギーに関する記述はないように思います。一方、開隆堂のほうでは、10ページには、調理の手順の1の計画を立てるで、食物アレルギーの確認ということがあります。手順の真ん中です。それからもう一つ、12ページに、卵のゆで方で、卵アレルギーがある場合はというようなことで注意を喚起しておりますので、そうした点から見ると、私はやっぱり開隆堂を推したいというふうに思います。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。非常に重要な指摘です。

私も、いろいろ調べてみたんだけど、東京書籍には、ほかにアレルギーについての記述はないようでございますね。

坂根委員 ないようですね。

横井委員長 仮にあったとしても目立たなくて、こちらは最初に記述されているということで、非常に結構だと思います。

私も、じゃ、ついですからお話しておく、今のことも含めて、他も含めてですけども、やはり開隆堂がよろしいんじゃないかと思っております。

ご意見のある方。はい、どうぞ。

阿部委員 私も今のアレルギーのご指摘は非常に重要な問題だと思いますので、開隆堂がいいと思います。

また、私が開隆堂をいいなと思ったのは、目次をあけると、誕生、入学、成長過程があって、5年

生でやることは、生活を見つめ、できることをふやすということで、全部で10項目。それを6年生になったら、できるようになる自分という目標で、5年生でやったことを工夫していろいろ生活に生かそうというステップアップしていくイメージがあるんです。東京書籍のほうは連続して14項目にずらっと並べているので、やり方としては、こういう5年生でやったことを6年生でさらに工夫して、自分で生かそうというような取り組み方のほうが望ましいのかなということもあって、開隆堂をお勧めしたいと思います。

横井委員長 雁部委員どうぞ。

雁部委員 端的に、開隆堂の14ページに後片づけという項目があって、これはいいことだ。それから、22ページのソーイングについての方法ですね。これも絵で分かりやすく描いてあって、いいと思います。62ページ「家族とほっとタイム」、これも先ほどの教科で言いましたけれども、家族を題材にしている、やはり開隆堂の本というのは温かみがある本だなと。66ページの写真で、「わたしの生活時間」というところの写真が、家族かどうか分からないですけども、地域の方かもしれませんが、こうやって「いってらっしゃい」って挨拶しているという、こういうものを載せているというのは大変いいことですね。

東京書籍のほうは、取り立てて問題はないと思うんですけども、やはり先ほど教育長がおっしゃったアレルギーとか、細かいところを見ると、開隆堂のほうがいいかなということで。

横井委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、満場一致で開隆堂ということになりました。家庭科は開隆堂を採択することといたします。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 では、次は保健ということで、よろしくお願いいいたします。

指導室長 体育科の教科の目標は、心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てることでございます。

保健の領域におきましては、健康な生活、身体の発育・発達、けがの防止、心の健康及び病気の予防についての基礎的・基本的内容を理解し、児童自らが課題を発見し、解決する過程を通して、健康安全の大切さに気付くことができることを重視しております。

保健の現在使用している教科書は、「株式会社学研教育みらい」でございます。

全5者からの採択をお願いいたします。

横井委員長 それでは、教育長どうぞ。

教育長 はい。それでは、各本の特徴点等、概括的に説明をしたいと思います。

まず、東京書籍本です。これは各単元が見開きページで構成され、分かりやすく、また、小單元ごとに「広げよう」のページがあり、発展的な学習につなげることができるようになっていて、いいかなと思います。

次の大日本図書本では、話し合ってみようというコーナーで、言語活動を意識した設問を設けていて、よい点であるというふうに思います。また、3年、4年の「育ちゆく体とわたし」の項目では、シールなどを活用した形で、子供たちの意欲を喚起する工夫がなされている点もよいかと思います。

次に、文教社本では、大判になっておりますけれども、その分、一つのページに文字も多く、いろいろな情報も詰め込まれているような印象を受けております。各単元、初めの「やってみよう」のこ

ーナーでは、学習したことを生かして、日常生活に結びつけるきっかけづくりがなされている点はよいかと思います。

光文書院本では、多くの単元で食に関する指導の内容が扱われているほか、けがの防止の単元では考えて記述させる箇所が多く、防災教育の面で扱いやすい点がよいかと思います。

最後に、学研本ですけれども、医薬品の取り扱いや喫煙と受動喫煙も害について詳しく記載されているほか、がんについても詳しく書かれておりまして、また、がんと喫煙や飲酒との関連も書かれていることから、学習の広がりも期待できると。また、各単元で、活用のコーナーで、考えて答えさせる設問を設けていることもよい点であるように思います。

なかなか比較が難しいんですけども、比較考量の上では、学研本がよいと思っております。

以上です。

横井委員長 ありがとうございます。

では、ご意見のある方はどうぞ。

はい、坂根委員。

坂根委員 私も、学研が見やすく使いやすいと思います。

学研の22ページ、大人に近づく体というのがありますが、これは水着を使っている会社のもありますが、これは体操着でして、余り生々しくないと言うと変ですけども、自然に体つきが伸びていくということを示すのに、何も水着を使う必要はないので、その辺、評価したいと思います。

最後のほうには、ドラッグ、薬物乱用、飲酒、喫煙について書いてあります。これは本当に大切なことですが丁寧に書いてあります。子供のうちから意識をするのが大切だと思い、この点でも学研を推薦します。

横井委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見はいかがでしょうか。

では、雁部委員。

雁部委員 私も学研がいいと思います。

5・6年生の、全体的に写真がよくて分かりやすいというのと、5・6年生の27ページには自分でできる簡単なけがの手当てとか、こういうことが載っていて、あとは皆さんがおっしゃったような意見で。

それから東京書籍は、東京書籍の3・4年生の12ページ、東京書籍の3年の12ページの上に「早寝早起き朝ごはん」という項目が載っておりまして、ここは大変気に入っております。

大日本図書。大日本図書は全般的に字が小さくて、情報量がちょっと少な過ぎるかなという印象を受けました。

文教社、ほかの会社もそうなんですけど、3・4年で19ページ、子供の成長していく過程ですね。やっぱり人によって違うということを明記してある。これも、ほかの会社も明記してあるんです。それと、5・6年のほうは喫煙・飲酒・薬物乱用について書いてありますので、それはいいかと思う。

光文書院が、5・6年の23ページ、犯罪被害とかそういうのの関連で、インターネットの正しい使い方を身につけようということで、例も書いてあるということで、これはいいと。

全般的に見やすいということと、細かく載って、ちょうどいいなと思うのが学研だと思っておりますので、学研をお薦めします。

横井委員長 ありがとうございます。

阿部委員どうぞ。

阿部委員 私も皆さんと同意見で、学研がよろしいと思います。

ご指摘のように、薬物乱用とか、飲酒の害とか、私どもも注意しないといけないようなことが、具体的に子供のうちから知識として持たせることと、あと、学研がおもしろいところは、細菌などのいろいろカラフルな写真や病気の血管とか、いろんな写真が結構きれいに出ていまして、例えば5・6年の42ページで、健康な肺とたばこで汚れた肺とか、非常にはっきりと写真で出ているので、分かりやすいなと思います。

ほかに、光文書院はちょっと判が小さくて、非常に詰まった感じで、字も小さいので読みにくいのが、ちょっとマイナスだなと。

あと、文教社の教科書も、悪くはないんですが、学研と比べると、やっぱり学研のほうが写真等が多用されて、分かりやすいと思います。

大日本図書もちょっと情報量が少ないかなと思います。

それから、東京書籍もそれなりによろしいのですが、思春期にあらわれる変化というところで、絵ではあるものの、ちょっと刺激的かなという印象を持ちました。

総合的に考えて、学研がよいと結論に至りました。

横井委員長 では、私も、同じことは繰り返しませんので、学研で結構であります。

雁部委員がご指摘のように、「早寝早起き朝ごはん」は非常に魅力的ではあるんですけども、ページ数と、それからサイズから考えると、情報量はやっぱりこちらのほうが多いような気がしますし、使い勝手もよさそうですので、学研ということにしたいと思います。

それでは、保健については学研を採択することと決定いたします。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 以上で、「平成27年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択について」は全て終了いたしました。ありがとうございました。

引き続きまして、議決事項第2、議案第52号「平成27年度使用教科書(特別支援学級用)の採択について」の説明をお願いいたします。

議決事項第2

議案第52号「平成27年度使用教科書(特別支援学級用)の採択について」案件を上程し、指導室長が説明する。

横井委員長 ありがとうございました。

それでは、ただいまの件についてですけども、何かご質問、ご意見ございましたら。これは、1番目の、先ほど選定した教科書については問題ない。上の学年が下の学年のものも使えるというお話でした。2番目は、文部省著作のものを使う。これも信頼できる場所ですから問題ない。それから、それ以外のテキストとして使える教科書が、これだけ膨大な量ございますので、一つ一つ検討するわけにもいきませんので、一括して東京都教育委員会の資料を再運用することについて、ご理解をいただくということになりますね。何かご質問ございますでしょうか。

はい、雁部委員どうぞ。

雁部委員 これは、教科書の選択範囲が広まったということで、支援学校には負担はかからない、今までと同じですか。

指導室長 今までは逆に言うと、その分厚い冊子の中からそれぞれが選んで、それをこちらに提出させていただいて、それを採択していただいたという形になるんですけども、要は、そのときに絶版をしてしまった場合には、その選んだもの以外のものは使えなくなってしまうということになりましたので、逆に言うと、全てをオーケーにさせていただければ、そういったときに違うものが対応できるという形になりますので、負担はかからないということです。

横井委員長 手続が簡単になるということですね。

指導室長 そうです。

横井委員長 あと、よろしゅうございますか。

それでは、平成27年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、特別支援学校において使用されている文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び特別支援教育教科書調査研究資料に記載されている全ての一般図書を採択することと決定いたします。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 以上で予定の議決事項は全て終了しました。

ほかに、事務局または委員さんから何かございますでしょうか。

よろしゅうございますか。事務局、何かございますか。

以上で、教育委員会を終了いたします。